



基幹研究

【王朝文学の流布と継承】

プロジェクト代表者：小林健二

プロジェクト参加者：伊藤鉄也、江戸英雄、落合博志、寺島恒世、久保木秀夫、斎藤真麻理、加藤昌嘉（法政大学准教授）、田渕句美子（早稲田大学教授）、浅田徹（お茶の水女子大学大学院准教授）、安達敬子（京都府立大学教授）、入口綾（元 統計数理研究所非常勤講師）、上野洋三（大阪女子大学名誉教授）、小川陽子（松江工業高等専門学校助教）、勝保隆（長崎大学教授）、神作研一（金城学院大学教授）、日下幸男（龍谷大学教授）、小林一彦（京都産業大学教授）、坂巻理恵子（大正大学非常勤講師）、妹尾好信（広島大学大学院教授）、田野慎二（広島国際大学准教授）、鶴崎裕雄（帝塚山学院大学名誉教授）、西本寮子（県立広島大学教授）、原豊二（米子工業高等専門学校准教授）、福田景道（島根大学教授）、藤田洋治（東京成徳短期大学教授）、古瀬雅義（安田女子大学准教授）、松原一義（川村学園女子大学教授）、安原真琴（立教大学兼任講師）、山本登朗（関西大学教授）、森田直美（当館機関研究員）

プロジェクト補助者：野本瑠美（当館リサーチアシスタント）

（1）概要

5月の調査員会議の折にシンポジウム「王朝文学の流布と継承」を実施し4名の共同研究員がパネリストとして発表を行い、12月に共同研究会を開催し3名の共同研究員により研究発表がなされ、それぞれに活発な討論が行われた。また、メンバーが各地で文献資料調査を行い、各自が学会や学術雑誌などで研究成果を発表した。さらに、『古典籍をみる・よむ・さがす（仮題）』の出版に向け、構成や執筆担当者等の検討を進めた。

（2）活動記録

[シンポジウム]

- ・日程 5月21日（木）
- ・場所 国文学研究資料館 大会議室
- ・発表者および発表タイトル
 - 久保木秀夫「禁裏・近衛家の蔵書形成過程一端」
 - 浅田徹「古今集奥書集成から見えるもの」
 - 小林一彦「定家卿真筆拾遺愚草ニモ菰ノ字ヲかゝれ候」
 - 神作研一「歌書の変遷」

（司会）小林健二

[共同研究会]

第1回研究会

- ・日程 5月22日（金）
- ・場所 国文学研究資料館 大会議室

・発表者、および発表タイトル

古瀬雅義「『古今和歌六帖』諸本の書入について」

妹尾好信「『菅家須磨記』の成立と流布についての憶測」

藤田洋治「三十六人集の本文の展開」

第2回研究会

・日程 12月25日(金)

・場所 国文学研究資料館 大会議室

・発表者および発表タイトル

野本瑠美「道真仮託百首をめぐって—f系統を中心に—」

伊藤鉄也「『源氏物語』における傍記の本行本文文化」

勝俣 隆「王朝文学の流布と継承—七夕伝説の受容と変遷を通して—」

〔資料調査〕

田淵句美子：7月4～5日 京都府立総合資料館（『明月記』関連資料調査）

1月15～16日 京都府立総合資料館（『二十一代集』関連資料調査）

松原一義：8月5～6日 北駕文庫（『十六夜日記』伝本調査）

2月5～6日 談山神社（談山神社蔵扁額などの調査）

神作研一：7月28～31日・8月7～8日 国立国会図書館（国会図書館所蔵文献調査）

山本登朗：8月21～22日・9月6～7日 鉄心斎文庫（『伊勢物語』古注釈調査）

入口 綾：9月2～5日 佐渡博物館（『伊勢物語』関連資料調査）

妹尾好信：9月24～26日 東海大学附属中央図書館（『須磨記』他の資料調査）

森田直美：10月3～4日 大阪府立中之島図書館（江戸期成立装束抄調査）

2月1～2日 名古屋大学附属図書館（江戸期成立装束抄調査）

鶴崎裕雄：11月18～22日 鹿児島大学附属図書館（細川幽斎関連資料調査）

安達敬子：12月2～3日 国文学研究資料館（館所蔵資料調査）

小林一彦：2月15～18日 宮城県立図書館（所蔵資料調査）

福田景道：2月1～2日 高山市郷土館（『いやよつき』等調査）

藤田洋治：2月18～20日 熊本大学附属図書館（北岡文庫所蔵資料調査）

〔研究成果〕

入口 綾：「筒井筒の風景」（山本登朗 ジョシュア・モストウ編『伊勢物語創造と変容』2009年5月 和泉書院）

西本寮子：「江戸時代中期における物語の流布と享受—『とりかへばや』を例として—」

（『国語と国文学（特集：王朝物語の研究）』86巻5号 2009年5月 至文堂）

原 豊二：「一条兼良と宇治十帖 —主にウヂノワキツイラツコ説について—」（『源氏物語の新研究 宇治十帖を考える』2009年5月 新典社）

【19世紀における出版と流通】

プロジェクト代表者：谷川恵一

プロジェクト参加者：大高洋司、山下則子、青田寿美、青木稔弥（神戸松蔭女子学院大学教授）、勝又基（明星大学准教授）、加藤禎行（山口県立大学講師）、菊池庸介（学習院大学非常勤講師）、キャンベル、ロバート（東京大学大学院教授）、佐々木亨（徳島文理大学教授）、島田大助（豊橋創造大学教授）、杉浦晋（埼玉大学

教授)、鈴木俊幸(中央大学教授)、関肇(京都光華女子大学教授)、津田真弓(慶應義塾大学准教授)、十重田裕一(早稲田大学教授)、木戸雄一(大妻女子大学准教授)、長尾直茂(上智大学准教授)、中丸宣明(山梨大学教授)、樋口恵(私立開智中学校・高等学校教諭)、山本和明(相愛大学教授)、山本陽史(山形大学大学院教授)、湯浅佳子(東京学芸大学准教授)、渡辺麻里子(弘前大学准教授)

プロジェクト協力者:磯部敦(中央大学非常勤講師)

(1) 概要

国文学文献資料調査と連動した調査を江差・弘前・酒田の各図書館・文庫について引き続き行うとともに、資料整理と分析を行った。明治初年の酒田における読書会についての研究の一部をまとめ『調査研究報告』に掲載した。

(2) 活動記録

[研究会の実施]

平成 21 年度は共同研究会を 1 回行った。

- ・日程 2 月 22 日(月)
- ・場所 国文学研究資料館 第 2 会議室
- 関肇 自他楽会はいかにして書物を入手したか
- 磯部 敦:関川家・藤枝家資料と皇学舎
- 青田寿美:今年度の調査研究-酒田:田中家資料について
- 谷川恵一:今年度の調査研究-自他楽会旧蔵書の調査について

[資料調査]

- 8 月 24~27 日 江差郷土資料館
- 12 月 18~19 日 酒田市立光丘文庫
- 2 月 20~21 日 弘前図書館
- 3 月 10~12 日 酒田市立光丘文庫

[研究成果]

青田寿美・山本和明「『書物類貸付控』からみえてくるもの-酒田市立光丘文庫蔵田中家文書より-」
 (『調査研究報告』第 30 号、2010 年 3 月)

【陽明文庫における歌合資料の総合的研究】

プロジェクト代表者:中村康夫

プロジェクト参加者:寺島恒世、久保木秀夫、赤澤真理、阿尾あすか、名和修(陽明文庫文庫長)、後藤祥子(日本女子大学名誉教授)、杉本まゆ子(宮内庁書陵部図書課主任研究官)、山本登朗(関西大学教授)、小山順子(天理大学専任講師)、日比野浩信(愛知淑徳大学非常勤講師)、舟見一哉(神戸市立工業高等専門学校助教)

プロジェクト研究者:山本哲介(日本学術振興会特別研究員)、井原今朝男(国立歴史民俗博物館教授)、倉本一宏(国際日本文化研究センター教授)

(1) 概要

陽明文庫における歌合資料の総合的研究では、本プロジェクトチームのメンバーについて個々に担当の資料を割り当て、個別に陽明文庫に出かけて調査を行い、展示および図録資料作成に向けて作業

を進めた。

三月にはそれを持ち寄り、研究会を開いて調整する。

(2) 活動記録

[研究会]

第1回陽明文庫展研究会

- ・日程 平成20年9月30日(火)
- ・場所 国文学研究資料館 第2会議室

第2回陽明文庫展研究会

- ・日程 平成20年12月25日(木)
- ・場所 国文学研究資料館 第2会議室

第3回陽明文庫展研究会

- ・日程 平成21年1月13日(火)
- ・場所 国文学研究資料館 第3会議室

第4回陽明文庫展研究会

- ・日程 平成21年3月3日(水)～4日(木)
- ・場所 陽明文庫

第5回陽明文庫展研究会

- ・日程 平成21年3月8日(月)
- ・場所 国文学研究資料館 第2会議室

[資料調査]

平成21年4月27日(月) 陽明文庫 各自作品調査 山本登朗

平成21年4月30日(木) 陽明文庫 各自作品調査 小山順子

平成21年5月18日(月) 陽明文庫 各自作品調査 山本登朗

平成21年5月21日(木) 国文研 「王朝文学の流布と継承」シンポジウム聴講及び打ち合わせ
名和修、山本登朗、日比野浩信、山本啓介、杉本まゆ子、中村康夫、
寺島恒世、久保木秀夫、阿尾あすか、赤澤真理

平成21年6月3日(水)・4日(木) 陽明文庫 各自作品調査 久保木秀夫、阿尾あすか、
赤澤真理

平成21年6月11日(木) 陽明文庫 各自作品調査 小山順子

平成21年6月29日(月) 陽明文庫 各自作品調査 山本登朗

平成21年7月2日(木) 陽明文庫 各自作品調査 小山順子

平成21年7月22日(水)・23日(木) 陽明文庫 各自作品調査 久保木秀夫、阿尾あすか、
赤澤真理

平成21年8月4日(火) 陽明文庫 各自作品調査 山本登朗

平成21年8月10日(月)・11日(火) 陽明文庫 各自作品調査 小山順子、山本啓介

平成21年9月1日(火)・2日(水) 陽明文庫 各自作品調査 中村康夫、井原今朝男、
倉本一宏

平成21年10月14日(火)・15日(水) 陽明文庫 各自作品調査 久保木秀夫、阿尾あすか、
赤澤真理、寺島恒世

平成21年11月26日(木) 陽明文庫 各自作品調査 小山順子

平成21年12月18日(金) 書陵部 各自作品調査 小山順子

平成 22 年 1 月 14 日 (木)・15 日 (金) 陽明文庫 各自作品調査 中村康夫、倉本一宏

平成 22 年 2 月 15 日 (月) 国文研 各自作品調査 倉本一宏

平成 22 年 2 月 16 日 (火)・17 日 (水) 書陵部 各自作品調査 山本登朗

平成 22 年 2 月 22 日 (月) 陽明文庫 各自作品調査 小山順子

平成 22 年 2 月 26 日 (金)・27 日 (土) 陽明文庫 二十卷本類聚歌合の調査 名和修、後藤祥子、
山本登朗、杉本まゆ子、日比野浩信、山本啓介、
舟見一哉、久保木秀夫、阿尾あすか

平成 22 年 3 月 1 日 (月) 書陵部 各自作品調査 倉本一宏

平成 22 年 3 月 5 日 (金) 京大図書館 各自作品調査 阿尾あすか

平成 22 年 3 月 12 日 (金) 金沢文庫 各自作品調査 日比野浩信



研究プロジェクト

1. 文学資源研究系

【総括】

文学資源研究系では法人第一期において下記の4つの共同研究プロジェクトを推進してきたが、平成21年（2009年）度は最終年度であったので、各プロジェクトがこれまでの研究成果をまとめる期間となった。各プロジェクトは研究会を催し、以下のような研究展示の実施や研究書の刊行、報告書の作成などによって研究成果の取りまとめを行い、次へのステップのために研究活動の検証を行った。

「日本古典籍特定コレクションの目録化の研究」は平成22年1月～2月に特別展示「江戸の歌仙絵」を開催し研究成果を盛り込んだ図録を作成し、『江戸の絵本—画像とテキストの綾なせる世界』を八木書店より刊行した。「和刻本「五山版・近世初期刊本」の研究」はデータベースの充実をはかるとともに報告書『和刻本（五山版・近世初期刊本）の研究』を作成した。「近世後期小説の様式的把握のための基礎研究」は、『江戸の文学』40号の特集「〈読み本〉様式考」において研究成果を示し、平成21年9月～10月に特別展示「江戸の長編読み物—読本・実録・人情本」を行い、『人情本事典—江戸文政期、娘たちの小説』を笠間書院より刊行し、報告書『八戸市立図書館所蔵南部家旧蔵本実録解題』を作成した。「学芸書としての中世類題集の研究—『夫木和歌抄』を中心に—」は報告書『学芸書としての中世類題集の研究—『夫木和歌抄』を中心に—』を作成した。

【日本古典籍特定コレクションの目録化の研究】

プロジェクト代表者：鈴木淳

プロジェクト参加者：井田太郎、岡本聡（当館客員准教授・中部大学准教授）、浅野秀剛（大和文華館長）、岩切友理子（国際浮世絵学会会員）、岩佐伸一（大阪歴史博物館学芸員）、神楽岡幼子（愛媛大学准教授）、神作研一（金城学院大学教授）、ロバート・キャンベル（東京大学大学院教授）、小林ふみ子（法政大学准教授）、佐藤悟（実践女子大学教授）、檜山裕子（青山学院高等部非常勤講師）、伊藤善隆（湘北短期大学准教授）、深谷大（早稲田大学客員研究員）

プロジェクト協力者：ティニオス・エリス（リーズ大学名誉講師）、マルケ・クリストフ（フランス国立東洋言語文化研究学院教授）

プロジェクト補助者：佐々木比佐子（当館リサーチアシスタント）

（1）概要

本年度は、特別展示「江戸の歌仙絵—絵本にみる王朝美の変容と創意—」を開催したほか、研究会を2回実施した。また、絵本論文集の年度末刊行に向けて準備を進めた。また、ドイツ国プルヴェラー旧蔵の絵本資料の書誌データの整理を継続した。

(2) 活動記録

[研究会]

第1回 研究会

- ・日 時 6月27日(土)
- ・場 所 国文学研究資料館2F オリエンテーション室
- 鈴木淳:「展示構成原案について」

第2回 研究会

- ・日 時 10月4日(日)
- ・場 所 国文学研究資料館2F オリエンテーション室
- 展示本解説原稿の読み合わせ

[資料調査]

千葉市美術館でラヴィッツコレクションの歌仙絵本の調査を実施した。その他、国立国会図書館等で歌仙絵本の調査を実施した。

[展示・シンポジウム]

特別展示「江戸の歌仙絵—絵本にみる王朝美の変容と創意—」

- ・日 時 1月8日(金)~2月5日(金)
- ・場 所 国文学研究資料館

展示資料 米国スミソニアン協会フリーア美術館・サックラー美術館図書館蔵『光悦三十六歌仙』など80点

図録「江戸の歌仙絵」(図版、図版解説、論文三編)

図版解説執筆者 伊藤善隆、岩切友里子、岡本聡、神楽岡幼子、神作研一、小林ふみ子、佐藤悟、鈴木淳、寺島恒世、深谷大

図録所収論文 鈴木淳「光悦三十六歌仙考」、伊藤善隆「俳人肖像画集の展開—歌仙絵の変奏—」、神作研一「江戸の王朝美—歌仙絵入刊本の展開—」

講演 佐藤悟「『絵本小倉錦』の成立と源氏絵」

鈴木淳「『光悦三十六歌仙』について」

ギャラリートーク 期間中毎週土曜日(鈴木、神作、伊藤)

[研究成果]

鈴木淳、浅野秀剛編『江戸の絵本—画像とテキストの綾なせる世界—』(八木書店、平成22年3月)。
ロジャー・S・キーズ「絵本 その特質と普遍性」他18編の論考を収録。

【和刻本「五山版・近世初期刊本」の研究】

プロジェクト代表者:山崎誠

プロジェクト参加者:入口敦志、陳捷、長澤孝三(元帝京大学専任講師)、堀川貴司(鶴見大学教授)、高津孝(鹿児島大学教授)、川原秀城(東京大学大学院教授)、陳先行(当館外国人研究員(客員教授)・上海図書館研究館員)

プロジェクト補助者:王曉瑞(元当館リサーチアシスタント)

(1) 概要

館蔵和刻本の序跋文の収集・整理、和刻本データベースの充実に努めながら、和刻本に関する文献目録作成のための情報収集を行った。海外の研究者を招いた研究会を開催し、和刻本とそれを取りまく東アジアの出版状況についての研究発表と討議を行った。学会発表、論文発表の他、研究会活動記

録を含めた研究報告書を刊行した。

(2) 活動記録

[研究会]

「和刻本プロジェクト」と平成17年度～21年度文部科学省特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成」出版文化班共同主催国際シンポジウム

・日 時 平成21年11月21日(土) 13:00～17:00

・場 所 東京大学法文1号館 115 番教室

発表者とテーマ

① Michela BUSSOTTI「Genealogies in Huizhou history of book」

コメント：高津 孝

② 劉 祥光「宋代卜算書籍的流通」

コメント：水口 拓寿

③ 入口 敦志「夢の変容—下天托胎場面における吹き出し型の夢—」

コメント：高津 孝

④ 袁 慧「四明雕版印刷及范氏天一閣蔵書」

コメント：陳 先行

⑤ 陳 捷「宋代仏教寺院の出版活動に関する一考察」

コメント：梶浦 晋

・日 時 平成22年1月15日(金) 13:30～17:30

・場 所 国文学研究資料館 第2会議室

発表者とテーマ

① 陳 先行(上海図書館研究館員 国文学研究資料館客員教授)

宋版の鑑定に関する問題提起

② 尾崎 康(元慶應大学付属研究所斯道文庫教授)

宋版研究における諸問題

[資料調査]

国立公文書館、東京大学、杏雨書屋、天理図書館などでの和刻本調査および和刻本文献目録作成のための資料調査を行った。

[研究成果]

山崎誠：共著書

・幼学の会『太公家教注解』汲古書院 2009.3.31刊

山崎誠：論文

・「《太公家教》源流考」『風起雲楊首届南京大学域外漢籍研究国際学術検討会論文集』中華書局 2009.10 共著

・「唐絵屏風の源流北魏司馬金龍墓出土屏風画の主題と構成」『国文学研究資料館紀要』2010.3

陳 捷：論文

・「黄遵憲与日本漢方医学保存運動」『中国典籍与文化』2009年第2期(総69期)、2009年4月

・「一八七〇—一八〇年代における中国書画家の日本遊歴について」『中国—社会と文化』第24号、2009年7月

・「日本における宋版との出会い」高田時雄編『漢字文化三千年』臨川書店、2009年7月

・「關於『羅振玉手札』所収羅振玉致楊守敬書札的考察」『文献』2009年第3期、2009年10月

- ・「幕末における日中民間交流の一例—知られざる日本人八戸弘光について」『中国哲学研究』第24号（佐藤慎一教授記念号）

入口敦志

- ・「御夢想の連歌と御夢想の肖像画—家光の家康追慕—」『国文研ニュース』No.16、2009年7月
- ・「師宣の雲—飾り枠小考—」『国際シンポジウム 日本文学の創造物—書籍・写本・絵巻—』、2009年9月
- ・「『帝鑑図説』の読まれかた—『帝鑑評』を中心に—」『成城文藝』第209号、2009年12月

【近世後期小説の様式的把握のための基礎研究】

プロジェクト代表者：大高洋司

プロジェクト参加者：飯倉洋一（大阪大学大学院教授）、井上泰至（防衛大学校准教授）、大屋多詠子（当館客員准教授・青山学院大学准教授）、勝又基（明星大学准教授）、菊池庸介（学習院大学非常勤講師）、木越俊介（山口県立大学准教授）、近藤瑞木（首都大学東京助教）、鈴木圭一（神奈川県立川崎北高等学校教諭）、高橋圭一（大阪大谷大学教授）、田中則雄（島根大学教授）、津田眞弓（慶応義塾大学准教授）、濱田啓介（花園大学客員教授）、檜山裕子（青山学院高等部非常勤講師）、藤澤毅（尾道大学教授）、二又淳（明治大学非常勤講師）、山本誠（静岡県立科学技術高等学校教諭）、山本卓（関西大学教授）、菱岡憲司（有明工業高等学校助教）、湯浅佳子（東京学芸大学准教授）

プロジェクト補助者：藤井史果（当館リサーチアシスタント）

（1）概 要

- ① 「江戸文学」40号（ぺりかん社）の誌面を提供してもらい、特集「〈よみほん〉様式考」としてプロジェクトのメンバー及びゲスト発表者から11名が論文を執筆した（平成21年5月30日刊）
- ② 成果展示として、特別展示「江戸の長編読みもの—読本・実録・人情本—」を実施した（平成21年9月25日～10月23日、当館展示室）
- ③ 文政期人情本81点を紹介する『人情本事典 江戸文政期、娘たちの小説』を刊行した（平成22年1月15日、笠間書院刊）
- ④ 報告書「八戸市立図書館所蔵／南部家旧蔵本／実録解題」（全28点）を発行予定（平成22年2月26日）

（2）活動記録

〔研究会〕

〔第1回研究会〕

- ・日 時 平成21年8月25日（火）～26日（水）
- ・場 所 国文学研究資料館大会議室

第1日プログラム

- ・大高洋司：「活動報告」
- ・発表：木越俊介「文政期人情本における様式とジャンル—『人情本事典』作成を通して—」
- ・発表：鈴木圭一「文政期の人情本について—『寝覚繰言』を例として—」

第2日プログラム

- ・成果展示の相談

- ・発表：山本卓「書記小説—舌耕の可能性」

[第2回研究会]

- ・日 時 平成21年12月5日(土)～6日(日)
- ・場 所 国文学研究資料館第2会議室

第1日プログラム

- ・大高洋司「活動報告」
- ・発表：大屋多詠子「馬琴の因果と近松」
- ・大高洋司「『双蝶記』追考—構成と主題—」

第2日プログラム

- ・発表：菱岡憲司「傀儡子から魁儡子へ—馬琴異称に見る執筆態度の変化—」
- ・発表：山本卓「書記小説—舌耕の可能性」

[展示]

特別展示「江戸の長編読みもの～読本・実録・人情本～」

- ・日 時 平成21年9月25日(金)～10月23日(金)
- ・会 場 国文学研究資料館
- ・ギャラリー・トーク 期間中毎週土曜日

[研究成果]

前記の「概要」に記した本年度の成果①～④を、既刊の『読本事典 江戸の伝奇小説』(平成20年2月、笠間書院刊)に加え、本プロジェクト6年間(平成16～21年度)の成果とした。

【学芸書としての中世類題集の研究—『夫木和歌抄』を中心に—】

プロジェクト代表者：寺島恒世

プロジェクト参加者：久保木秀夫、齋藤真麻理、田淵句美子(早稲田大学教授)、石澤一志(目白大学専任講師)、伊藤善隆(湘北短期大学准教授)、大谷俊太(奈良女子大学教授)、鈴木健一(学習院大学教授)、鈴木元(熊本県立大学教授)、福田安典(愛媛大学教授)、三戸信恵(サントリー美術館学芸員)、三村晃功(京都光華女子大学教授)、渡邊裕美子(宇都宮大学非常勤講師)、小川剛生(慶應義塾大学准教授)

(1) 概 要

平成19年度末に刊行した成果『夫木和歌抄 編纂と享受』以降、昨年度研究会において確認した課題を踏まえ、メンバー各個に研究を進めた。多岐に亘る研究のうち、各分野から成果の上がったものを取り上げ、研究会において研究発表を行い、その検証を行うとともに今後の課題を確認した。研究会における検証と確認を踏まえ、6年間の活動状況と成果を報告書にまとめた。

(2) 活動記録

[研究会]

- ・日 時 平成21年12月12日(土) 午後13:30～午後17:00
- ・場 所 国文学研究資料館 第1会議室
- ・発表者：
 - 久保木秀夫「陽明文庫蔵『愚聚抄』の紹介—『夫木抄』享受に関する一資料—」
 - 石澤 一志「国書刊行会本『夫木和歌抄』の成立」
 - 福田 安典「近世後期類題集の諸問題—国文学研究資料館所蔵『類題高調集』をめぐって—」

三村 晃功「国文学研究資料館蔵『二八明題和歌集』考」

〔研究成果〕

「プロジェクト研究報告書」に上記研究会で発表された原稿を掲載し、本年度成果を公表した。また、本年度は研究期間最終年度にあたるので、本報告書に、『夫木和歌抄 編纂と享受』に対する講評（昨年度研究会における成果）を掲載し、研究期間6年間の研究活動の総括と今後の課題を示した。

2. 文学形成研究系

【総 括】

平成21年度の文学形成研究系では、以下に記す3つの共同研究プロジェクトを推進した。当該年度は第一期中期の最終年度であり、また当館の組織改編にともない、文学形成研究系の最終年度でもあった。第一期中期の評価はすでに出されていたが、両様の最終年度にあたって、各共同研究プロジェクトでは、最後のとりまとめを行うとともに、共同研究会を活発に開催した。

「平安文学における場面生成研究」プロジェクトでは最後の研究成果報告として『物語の生成と受容⑤』（全236頁）を発行、また11月には、特別展示「物語の生成と受容」を開催し6年間の成果を公開した。

「古典形成の基盤としての中世資料の研究」プロジェクトは、台湾大学と共同主催の共同研究会を開催、その成果として『古典化するキャラクター』（アジア遊学130号、勉誠出版）を刊行した。さらに平成16～21年度の成果のリストを作成し、プロジェクトの最終報告とした。特記すべきは『総本山善通寺聖教・典籍目録稿』（全130頁）の作成で、これはプロジェクト発足以前から当館が長期にわたって継続してきた善通寺調査をふくむ、長年にわたる成果の結実であり、「前人未踏」のリストとの評価を受けた。

「近世文学の表現技法〈見立て・やつし〉の総合研究」プロジェクトは、イタリアで研究集会、アメリカで研究成果の特別講義を実施し、研究成果報告第5号（全54頁）を作成した。さらにプロジェクトの直接的な研究成果ではないが、当該プロジェクトを基盤とした国際共同研究集会を伊日研究学会（AISTUGIA）と連携して開催し、報告書（全91頁）を刊行した。

各プロジェクトでは、共同研究に新しいメンバーを加えるなどして、陣容の充実を計った。また「平安文学における場面生成研究」プロジェクトでは吉田小百合がリサーチ・アシスタントに就任、「近世文学の表現技法〈見立て・やつし〉の総合研究」プロジェクトでは紅林健志から金時徳ヘリサーチ・アシスタントが交代した。

【古典形成の基盤としての中世資料の研究】

プロジェクト代表者：武井協三

プロジェクト参加者：落合博志、齋藤真麻理、相田満、渡辺信和（同朋大学研究室長）、濱中修（国士舘大学教授）、横田隆志（大阪大谷大学准教授）、三田明弘（日本女子大学准教授）、牧野和夫（実践女子大学教授）、渡辺匡一（信州大学准教授）、中山一磨（大阪大学大学院招へい研究員）、陳明姿（当館外国人研究員（客員教授）・台湾大学教授）

プロジェクト補助者：宮本淳子（当館リサーチアシスタント）

(1) 概 要

21年度は、「古典キャラクター」を主題とする国際シンポジウムを台湾大学との共同主催により開催（会場：台湾大学）、また客員教授に陳明姿（台湾大学教授）を迎えての共同研究会を行った。「書物の古典」を主題とする研究についても共同研究会を開き、これまで調査研究を進めてきた寺院収蔵典籍の全貌と形成過程について成果発表を行った。成果物としては、これまでの研究成果の概要をまとめた『研究成果報告』と、『総本山善通寺聖教・典籍目録稿』、勉強出版から『古典化するキャラクター』（『アジア遊学』130号）を刊行した。さらに、関連する出版物としては、台湾大学から国際シンポジウム報告書『「キャラクターの古典化」検討會論文集』（台湾大学編）がある。

(2) 活動記録

〔研究会〕

第1回研究会「キャラクターの古典化」国際シンポジウム（台湾大学との共同主催による国際シンポジウム）

- ・日 時 2009年5月17日
- ・場 所 台湾大学
- ・発表者と演目
 1. 渡辺信和：聖徳太子キャラクターの古典化と用明天皇の物語
 2. 横田隆志：太政威徳天としての天神
 3. 相田 満：有職故実のカリスマー北畠親房と『職原抄』—
 4. 濱中 修：中世の英雄像の誕生—小栗を中心に—
 5. 三田明弘：キャラクターとしての莊子—賢人から神仙へ—
 6. 牧野和夫：『少女の友』賞品と舞妓キャラクター—〈「だらりの帯」の舞妓〉の定着—
 7. 陳 明姿：今昔物語集における狐

第2回研究会

- ・日 程 2009年9月7日
- ・場 所 国文学研究資料館
- ・発表者と演目
 1. 渡辺信和：聖徳太子の観相
 2. 相田 満：観相と文字のキャラクター
 3. 濱中 修：巴御前の神話学—『源平盛衰記』を中心に—
 4. 陳 明姿：日本古代文学における鬼と中国文学—今昔物語集の震旦部を中心に—
 5. 横田隆志：キャラクターの古典化—長谷観音の御衣木を例として—
 6. 研究協議—古典とキャラクターを考える—

第3回研究会

- ・日 程 2010年2月1日
- ・場 所 総本山善通寺
 1. 落合博志：『安撰和歌集』の諸問題—善通寺蔵光国写本の位置など—
 2. 渡辺匡一：『血脈抄』の諸本と資料的価値—善通寺本を中心に—

〔資料調査〕

1. 善通寺収蔵資料調査 2009年8月16日～20日・2010年1月30日～2月3日（渡辺匡一・中山一磨・落合博志）
2. 随心院収蔵資料調査 2009年8月17日～18日・2010年2月21日～2月24日（相田満）

【研究成果】

学会における成果発表

- ・日 時 2009 年 8 月 1 日
- ・場 所 サン・リフレ函館（函館市勤労者総合福祉センター）
- ・和漢比較文学会 東部例会
- ・観相譚と観相書—研究序説— 国文学研究資料館 相田満

論 文

- ・落合博志「善通寺の聖教と説話資料・文学資料」（特集 善通寺の経典・聖教）『説話文学研究』44、説話文学会、2009. 7
- ・中山一磨「善通寺蔵『真友抄』について—南北朝期高山寺系聞書が映す世相—」（特集 善通寺の経典・聖教）『説話文学研究』44、説話文学会、2009. 7
- ・渡辺匡一「よちり不動考」（特集 善通寺の経典・聖教）『説話文学研究』44、説話文学会、2009. 7
- ・相田満「六国史のキツネ—その祥瑞と怪異をめぐって—」『東洋研究』174、大東文化大学東洋研究所、2009. 12
- ・相田満「利休の顔—観相的分析の試み—」『茶譜 卷二注釈』、大東文化大学東洋研究所、2010. 3

【平安文学における場面生成研究—物語の生成と受容】

プロジェクト代表者：中村康夫

プロジェクト参加者：伊藤鉄也、江戸英雄、安藤徹（当館客員准教授・龍谷大学准教授）、阿尾あすか（当館機関研究員）、岩城賢太郎（宇部工業高等専門学校講師）、小川陽子（松江工業高等専門学校助教）、加藤昌嘉（法政大学准教授）、金光桂子（京都大学大学院准教授）、高橋由記（明星大学非常勤講師）、中川照将（皇學館大学准教授）、荻野敦子（琉球大学准教授）、松岡智之（静岡大学准教授）、横井孝（実践女子大学教授）、横溝博（秀明大学専任講師）

プロジェクト補助者：吉田小百合（当館リサーチアシスタント）

（1）概 要

平安文学の研究領域を拡大し、活発な議論を誘発するような礎を構築する目標を立て、第一期中期計画最終年度の活動を展開した。開催した三回の研究会では、源氏物語の諸本分類の試案についての検討や、「物語音読論再考」を小テーマに設定した共同討議を実施した。また、これまでの研究成果の一部を特別展示「物語の生成と受容」という形態で一般に公表した。主な研究成果としては、例年通り今年度も、研究会での報告や議論等を研究成果報告書『物語の生成と受容⑤』に収載して発刊した。

（2）活動記録

【研究会】

第 10 回研究会

- ・日 時 平成 21 年 7 月 25 日（土）
- ・場 所 国文学研究資料館第 1 会議室
- ・江戸英雄「特別展示「物語の生成と受容」について」
- ・江戸英雄「展示資料検討報告「浜松中納言物語」」

第11回研究会

- ・日 時 平成21年10月8日(木)
- ・場 所 国文学研究資料館第1会議室
- ・伊藤鉄也「傍記混入の実態から見える源氏物語諸本の位相―「初音」「常夏」の場合」

第12回研究会

- ・日 時 平成21年11月7日(土)
- ・場 所 国文学研究資料館第1会議室

小テーマ《物語音読論再考》

松岡智之「物語音読論再考 物語音読論生成の周辺」

安藤 徹「物語(音読論)の臨界」

展示内覧会

【資料調査】

展示資料35点につき改めて調査確認したほか、展示に出陳した新収資料の関連資料につき一宮市尾西歴史民俗資料館で文献調査を行った。なお展示に際しては、池田和臣氏(中央大学教授)、久下裕利氏(昭和女子大学教授)、田中登氏(関西大学教授)と、実践女子大学にご協力頂いた。

【展示】

特別展示「物語の生成と受容」

- ・日 時 平成21年11月9日(月)～23日(月・祝)及び28日(土)・29日(日)
- ・場 所 国文学研究資料館展示室

【研究成果】

特別展示「物語の生成と受容」を上記の期間開催した。523人の来場者があり、アンケートには好評な意見が多く寄せられた。展示に際しては、展示パンフレット(B5版 カラー刷 49p)を作成し、展示室で配布したほか、展示に関する簡単な報告を「国文研ニュース」第18号(平成22年1月発行)にトピックスとして掲載した。上記研究会における基調報告と共同討議は、「国文研ニュース」第17号(平成21年10月23日発行)に「特別展示「物語の生成と受容」の開催」として公表したほか、展示資料に関する検討報告と合わせて『平成21年度研究成果報告 物語の生成と受容⑤』(平成22年2月22日発行)として活字化し、中古・中世の研究者・研究機関約300カ所に配布した。

【近世文芸の表現技法「見立て・やつし」の総合研究】

プロジェクト代表者：山下則子

プロジェクト参加者：武井協三、井田太郎、加藤定彦(立教大学教授)、原道生(明治大学名誉教授)、延広眞治(帝京大学教授)、佐藤恵里(高知女子大学教授)、安原眞琴(立教大学兼任講師)、光延真哉(日本学術振興会特別研究員)、吉丸雄哉(順天堂大学非常勤講師)、浅野秀剛(大和文華館館長)、新藤茂(東京理科大学非常勤講師)

プロジェクト協力者：金子俊之(早稲田大学非常勤講師)

プロジェクト補助者：金時徳(総合研究大学院大学大学院博士課程)

(1) 概 要

本年度の活動は共同研究会を2回開催した。海外での研究成果発表と研究成果にもとづく特別講義を、国文学研究資料館の学術交流事業の一環として行った。海外での研究成果発表と特別講義は、ヴェネツィア大学とコロンビア大学で実施した。どちらも現地の大学院生等が30人ほど参加し、熱心

な質疑応答があった。

また、『近世文芸の表現技法〈見立て・やつし〉の総合研究プロジェクト報告』第5号(53頁)を年度末に刊行した。

(2) 活動記録

[研究会]

第1回共同研究会

- ・日 時 平成21年7月29日(水)
- ・場 所 国文学研究資料館 第1会議室
- 光延真哉(日本学術振興会特別研究員):「スポンサーコレクション所蔵『風流ぶたい顔』について」
- 高橋(山下)則子:「〈馬盟〉の光秀の見立—歌舞伎『時桔梗出世請状』の素材」

第2回共同研究会

- ・日 時 平成21年12月22日(火)
- ・場 所 国文学研究資料館 第1会議室
- 浅野秀剛(大和文華館館長):「役者見立絵—その発生から定着まで」
- 延広真治:『五百崎虫の評判』を読む①」

[研究成果]

海外での研究成果発表と特別講義を行った。

9月28日

ヴェネツィア大学「カ・フォスカリ」東アジア学科日本語日本文学研究科/当プロジェクト共同主催「日本の演劇」

佐藤恵里:「〈実は〉の構造—歌舞伎の〈やつし〉を遡る」

武井協三:「人形浄瑠璃と〈見立て〉—基盤人形について—」

11月6日

コロンビア大学東アジア言語文化学部特別講義「見立とやつし」

高橋(山下)則子:「「見立」と「やつし」—浮世絵と版本—」

浅野秀剛:「役者見立絵—その発生から定着まで—」

刊行書『近世文芸の表現技法〈見立て・やつし〉の総合研究プロジェクト報告書』5号。内容は以下のとおりである。

金子俊之:「芭蕉発句の「見立て」表現—和歌・初期俳諧を視野に入れつつ—」

光延真哉:「スポンサーコレクション所蔵『風流ぶたい顔』について」

高橋(山下)則子:「黒本仕立地口絵本『ちぐち』について」

3. 複合領域研究系

【開化期戯作の社会史研究】

プロジェクト代表者:谷川恵一

プロジェクト参加者:青田寿美、北村啓子、山下則子、加藤禎行(当館客員准教授・山口県立大学講師)、青木稔弥(神戸松蔭女子学院大学教授)、奥野久美子(別府大学准教授)、佐藤至子(日本大学准教授)、甘露純規(中京大学准教授)、キャンベ

ル、ロバート（東京大学大学院教授）、佐々木亨（徳島文理大学教授）、佐藤悟（実践女子大学教授）、須田千里（京都大学大学院准教授）、高木元（千葉大学教授）、高橋昌彦（福岡大学准教授）、木戸雄一（大妻女子大学准教授）、中丸宣明（山梨大学教授）、山田俊治（横浜市立大学教授）、山本和明（相愛大学教授）、山本良（埼玉大学准教授）

プロジェクト協力者：福井辰彦（立命館大学講師）

プロジェクト補助者：富塚昌輝（当館リサーチアシスタント）

（１）概 要

魯文の著作について共同研究メンバーが各自分担して報告する研究会を引き続き開催し、著作解題集作成に向けた研究を継続して行うとともに、６年間にわたる研究の総括を行い、解題集および論文集出版に向けた最終のとりまとめ作業をすすめた。

（２）活動記録

〔研究会〕

- ・日 時：５月 29 日（金） 14：00
- ・場 所：国文学研究資料館 オリエンテーション室
加藤禎行：『現今支那事情』について
- ・日 時：６月 26 日（金） 14：00
- ・場 所：国文学研究資料館 第 2 会議室
谷川恵一：『頼光大江山入』について
- ・日 時：７月 18 日（土） 10：00～18：00
- ・場 所：国文学研究資料館 オリエンテーション室
加藤禎行：『現今支那事情』について
福井辰彦：『傀儡太平記』について
佐々木亨：『滑稽富士詣』について
神林尚子：『伊賀の仇討』をめぐって
谷川恵一：『廓曾我仮家細軒』について
高木 元：疱瘡絵等、資料紹介
- ・日 時：７月 19 日（日） 10：00～17：00
- ・場 所：国文学研究資料館 オリエンテーション室
山本和明：魯文「花櫓根分大歌舞」について
宮脇真理子：『遊戯菩提記』について
青田寿美：『復讐曾我物語』について
中丸宣明：『神稲黄金笠松』について
- ・日 時：12 月 17 日（木） 14：00
- ・場 所：国文学研究資料館 第 4 会議室
加藤禎行：野崎魯文校合『大日本／万物歳時記』『皇朝／年中行事俗家通覧』について
- ・日 時：1 月 9 日 11：00～19：00
- ・場 所：国文学研究資料館 第 2 会議室
谷川恵一：万字堂と魯文—『浄瑠璃大全』をめぐって—
奥野久美子：「箱根権現霊験記」について
神林尚子：「東紫哇文庫」について

木戸雄一：『権八一代記』について

加藤禎行：鈍亭魯文補綴「小栗一代記」について

高木 元：『美勇水滸伝』について

青木稔弥：『成田道中膝栗毛』について

福井辰彦：『漢土二十四孝伝』について

・日 時：1月10日10:00～17:00

・場 所：国文学研究資料館 第2会議室

山本和明：野崎左文書『仮名垣文集』に就いて

青田寿美：新庄堂と魯文（承前）—「端唄独稽古」「実語教童子教余師」のことなど

佐藤至子：『日光道中膝栗毛』について—ふたたび魯文と愚文—

佐藤至子：『金毘羅利生伝記』について

佐々木亨：『源平盛衰記』に見られる魯文の抄録態度

・日 時：3月5日14:00

・場 所：国文学研究資料館 第2会議室

総括および魯文解題のフォーマットについて

〔資料調査〕

9月12日 アド・ミュージアム東京

10月15日 アド・ミュージアム東京

10月23日 神戸松蔭女子学院大学図書館

2月8日～9日 群馬大学新田文庫

〔研究成果〕

佐々木亨：『明治戯作の研究：草双紙を中心として』（早稲田大学出版部、2009年10月）

【日本文学関連電子資料の構成・利用の研究】

プロジェクト代表者：古瀬蔵

プロジェクト参加者：相田満、青田寿美、大内英範（当館機関研究員）、野本忠司、安永尚志（当館名誉教授）、永崎研宣（人文情報学研究所所長）

プロジェクト協力者：大友一雄、前川喜久雄（国立国語研究所グループ長）、五島敏芳（京都大学講師）

プロジェクト補助者：大野順子（当館リサーチアシスタント）、矢澤由紀（当館リサーチアシスタント）

（1）概 要

日本文学研究者にとって有用な情報を網羅した電子資料群の構築と利用環境の高度化に向けて、公開データベースシステムの現状調査、新規トピックの蔵書印データベースについては基本データ収集と実験システム構築、既存データベースについては時間情報や縦書き表示など情報の充実化に取り組み、情報処理学会シンポジウムなどで研究成果の一部を発表した。

（2）活動記録

〔研究会〕

平成22年2月19日に、館外からの参加を含めた研究会を国文研にて実施。館内の研究（代表および分担）者5名と研究補助者2名が進捗状況と研究計画を中心に報告。プロジェクト研究を館内および館外の研究者に紹介するとともに、プロジェクト研究の最終年度に向けた研究の方向性について意

見交換を実施し、館外の研究協力者などとの研究交流の機会とした。

[資料調査]

- ・日本文学関連電子資料の新しいジャンルとなる蔵書印について、大阪大学附属図書館忍頂寺文庫に加えて小野文庫にて資料調査と収集を実施。
- ・日本文学研究における電子資料利用の有効性の題材に選定した大島本源氏物語などの写本調査を京都文化博物館において、関連資料の調査を天理大学附属天理図書館において実施。

[研究成果]

- ・蔵書印について、今年度から館蔵資料の蔵書印撮影に着手し、印影データを充実化
- ・新規データベースである和漢オントロジと暦日について、研究資源共有化システムの NihuONE で公開。
- ・古事類苑について、地部 2-3 のデータ追加や検索システム機能改良を実施。
- ・古事類苑や地名オントロジなど古典学データベース拡充の取り組みについて、情報処理学会シンポジウム「じんもんこん」や台湾での国際研究集会において研究発表。
- ・国文研から公開している欧州所在日本古書総合目録など古典籍データベースの概要について、EAJRS（日本資料専門家欧州協会）年次大会において発表。
- ・『源氏物語鎌倉期本文の研究』（おうふう）3 月刊行

[その他]

電子資料館ページにおいて、アーカイブズ学文献データベースの新規公開、古典選集本文（二十一代集、絵入源氏物語、吾妻鏡）のデータベースシステム移行、欧州所在日本古書総合目録のインタフェース改良などを支援した。

4. アーカイブズ研究系

【総 括】

古文書から電子記録まで多様に存在するアーカイブズ資源に関する総合的研究を行い、わが国アーカイブズの特質解明およびその保存・活用のための技法と理論を確立することを目的として、さらにアーカイブズ情報を社会化するためのシステム構築の研究を推進することに重点を置き、次の三つの共同研究プロジェクト、つまり①経営と文化に関するアーカイブズ研究、②東アジアを中心としたアーカイブズ資源研究、③アーカイブズ情報の資源化とネットワーク研究、を展開した。

いずれも平成 16 年度～21 年度の 6 年計画の最終年度である。

プロジェクト研究①は、文部省史料館以来の伝統的な史料学研究を引き継いだもので、②は東アジアの比較史料学研究とアーカイブズ資源の共有化に関する研究であり、③は史料群情報の電子化と国内的国際的情報共有システムに関わる研究であり、アーカイブズ学研究を基盤に三つの研究プロジェクトが相互に相補う関係に設定されている。

共同研究の進展という立場から、大学・自治体等と連携して研究を進め、歴史学、情報学、美術史学などを専攻する大学教員等の調査・研究活動への参加を得ている。また、研究機関研究員・リサーチアシスタントなど若手研究者を調査活動や研究会に参加させ、報告させるなど、その育成を積極的に図っている。

なお、『国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇』第 6 号を刊行し、研究成果を発表した。

また②の研究成果として、英文報告書 *Redefining the Archives History: Multilateral Com-*

parative Study on Archives during the Medieval and Early Modern Period, (NIJL, 2010年2月)を、③の研究成果として、論文集『アーカイブズ情報の共有化に向けて』(岩田書院、2010年2月)を刊行した。

【経営と文化に関するアーカイブズ研究】

プロジェクト代表者：高橋実

プロジェクト参加者：青木睦、山田哲好、岡部真二（茨城県立歴史館主席研究員）、籠橋俊光（東北歴史博物館研究員）、門前博之（明治大学教授）、神谷智（愛知大学准教授）、多和田雅保（横浜国立大学准教授）、浪川健治（筑波大学大学院教授）、守屋正彦（筑波大学大学院教授）、山崎圭（中央大学准教授）、山本英二（信州大学准教授）、横山憲長（長野県立短期大学教授）

プロジェクト補助者：荒川将（当館リサーチアシスタント）

（1）概 要

館蔵史料のうち近世・近代の地主・名望家及び実業家の経営と文化に関する史料を中核とし、現地に保存されている関連史料を対象に含めてアーカイブズ学的研究を進めている。それにより地域文化の多様性を総合的にとらえ直し、豊かな地域史像を示すとともに、アーカイブズ学研究の進展を図ることを目的としている。本研究は（1）～（3）の三つの柱を立てて進めてきた。

（2）活動記録

〔資料調査〕

（1）信濃国高井郡東江部村山田家文書を中心とする調査・研究

館蔵の山田家文書及び中野市の山田家文書を対象としたこれまでの調査・研究を総括するとともに、次期中期計画策定の準備を進めた。

（2）常陸国行方郡玉造村大場家文書を中心とする調査・研究

館蔵史料の常陸国行方郡牛堀村須田家と、同じく水戸藩南領の大山守を代々勤めた大場家の文書を対象に総合的調査を実施した。引き続き水戸藩の中間支配機構としての大山守の歴史的位罫・意味などについての分析を進めた。

（3）日本実業史博物館資料の調査・研究及び交流・公開

渋沢敬三が史料館へ寄贈した「日本実業史博物館」準備室旧蔵資料（略称：実博資料）に関する研究を引き続き実施した。本研究では、渋沢敬三の博物館設立の基本指針と計画遂行に関わる文書である「一つの提案」を分析の基軸に据え、準備室日誌、収集資料登録台帳や領収書など資料群形成過程の解明に欠かせない準備室アーカイブズに対するアーカイブズ学的手法による検討を主眼として研究を進めた。

〔シンポジウム〕

共同研究者全員による総括シンポジウムを開催し（7月18日～19日、国文研）、多様な分野から幅広い論議を展開した。

〔研究成果〕

成果として研究報告書『近世中後期地域の中罫支配・由緒・蔵書・文芸研究』を刊行した。報告書の第1部は常陸国水戸藩領大山守大場家・須田家資料の研究成果で、第2部は信濃国中野領豪農山田家資料の研究成果である。本書の特徴は、記録史料学にとどまらず美術資料学や書籍資料学などを含む総合的研究成果であるということである。

【アーカイブズ情報の資源化とネットワークの研究】

プロジェクト代表者：大友一雄

プロジェクト参加者：前川佳遠理、坂口貴弘（当館機関研究員）、藤吉圭二（当館客員准教授・高野山大学准教授）、青山英幸（駿河台大学大学院非常勤講師）、安倍尚紀（東京福祉大学専任講師）、五島敏芳（京都大学講師）、戸森麻衣子（元当館機関研究員）、原正一郎（京都大学教授）、丸島和洋（中央大学兼任講師）、村越一哲（駿河台大学教授）、森本祥子（学習院大学大学院助教）、安澤秀一（当館名誉教授）、安永尚志（当館名誉教授）

プロジェクト補助者：榎本博（当館リサーチアシスタント）

（1）概 要

今年度はアーカイブズ情報の資源化に関わり公開研究会を開催し、アーカイブズ編成理論についての議論を深めると同時に、具体的な資源化の方法についても沖縄県立公文書館等を事例に検討した。また、本プロジェクトの研究成果をまとめた論文集『アーカイブズ情報の共有化に向けて』の出版について検討を重ねこれを刊行した。さらに6か年間の研究活動と研究成果を示した『研究成果報告書』を作成した。

（2）活動記録

〔公開研究会〕

公開研究集会「アーカイブズ編成の理論と実践—公文書館の現場からの提言—」

- ・日 時：2010年1月9日（土）
- ・場 所：国文学研究資料館 第1会議室

プログラム

柴田知彰「記録史料群の編成・構造化に関する理論から実践へ」—近代県庁文書群の目録編成を題材に—

大城博光「沖縄県公文書館における公文書編成について」

〔研究成果〕

1. 『アーカイブズ情報の共有化に向けて』（岩田書院、2010年2月）の公刊

当プロジェクトの主要な成果の一つとして、論文集を公刊した。収録論文は以下の通りである。

第1部 アーカイブズ情報の共有化と情報社会

- ・第1章 安倍尚紀「社会学によるアーカイブズ論のための基礎的考察」
- ・第2章 藤吉圭二「政府のアカウンタビリティとアーカイブズ」
- ・第3章 坂口貴弘「諸外国におけるアーカイブズ情報共有化の現状とその手法」
- ・第4章 大友一雄「史料保存機関における情報資源化の取り組みと課題」
- ・第5章 森本祥子「国立国語研究所における研究資料の保存と活用について」

第2部 アーカイブズ情報の概念と構造

- ・第6章 青山英幸「国際標準（ISAD（G）2nd/ISAAR（CPF）2nd/ISDF）による組織構造体と機能構造体としてのフォンドの統一的把握」
- ・第7章 青山英幸「フォンドとシリーズの関係について」
- ・第8章 吉田千絵「レコード・マネジメントにおける国際標準の適用」

第3部 アーカイブズ情報共有化の実践技法

- ・第9章 五島敏芳「EADの概要と日本における動向」

- ・第10章 丸島和洋「EAD/XMLのウェブ上での表示とXSL」
- ・第11章 村越一哲「表計算ソフトを利用した史料目録EAD化のためのツール」
- 2. 『平成16年度～平成21年度研究成果報告書』の出版(2010年2月)

当プロジェクト研究活動とその成果を示した報告書を出版した。

3. 史料群の構造分析研究に関わる出版

収蔵史料信濃国松代真田家文書などを中心に史料群の組織構造に関する研究を進めその成果をアーカイブズ研究系の研究会で発表し、それに基づき史料目録第90集を刊行した。

4. 日本全国の諸機関の協力を得て集約してきた全国の収蔵公開機関情報、収蔵公開機関が収蔵する史料群情報について分析を進めた。また、研究成果に基づき集約情報を公開する「史料情報共有化データベース」のデータを更新した。

さらに、当館収蔵史料目録のデータベース公開に向けて、既刊の目録データの分析を進め、新規データベースを試作した。

【東アジアを中心としたアーカイブズ資源研究】

プロジェクト代表者：渡辺浩一

プロジェクト参加者：加藤聖文、安藤正人（学習院大学大学院教授）、臼井佐知子（東京外国語大学大学院教授）、岡崎敦（九州大学大学院准教授）、蔵持重裕（立教大学教授）、栗原純（東京女子大学教授）、高橋一樹（国立歴史民俗博物館准教授）、林雄介（明星大学准教授）、永島広紀（佐賀大学准教授）、松田利彦（国際日本文化研究センター准教授）、三浦徹（お茶の水女子大学大学院教授）

プロジェクト補助者：崔誠姫（当館リサーチアシスタント）

(1) 概要

多国間比較研究班では、ドイツから研究者を招聘して研究会を開催したほか、英文報告書を刊行した。

植民地アーカイブズ研究班では、収集した資料を整理した。

(2) 活動記録

〔研究会〕

・日時 平成21年11月22日(火) 13:00～17:30

・場所 慶應義塾大学日吉キャンパス

・発表者と題目(内容)

高橋一樹「古文書学と史料学—日本中世を中心に—」

マルク・メジオルフスキー「ドイツ語圏における文書形式学とモニュメンタ・ゲルマニエ・ヒストリカ」

エレン・ヴィッター「書記官長と尚書局：中世後期の文書形式学への新しい接近」

※西欧中世史料論研究会、人間文化研究機構総合推進事業「人間文化研究資料の多元的複眼的比較研究」と共催

〔研究成果〕

研究成果報告『Redefining the Archives History: Multilateral Comparative Study on Archives of Medieval and Early Modern Periods』(国文学研究資料館、2010年2月)

5. 公募共同研究

【近世風俗文化学の形成—忍頂寺務草稿および旧蔵書とその周辺—】

プロジェクト代表者：飯倉洋一（大阪大学大学院教授）

プロジェクト参加者：山下則子、青田寿美、近衛典子（駒沢大学教授）、福田安典（愛媛大学教授）、山本和明（相愛大学教授）、山崎ゆみ（京都女子大学准教授）、鷺原知良（佛教大学非常勤講師）、尾崎千佳（山口大学准教授）、川端咲子（神戸女子大学非常勤研究員）、内田宗一（東京家政学院大学准教授）

（1）概 要

忍頂寺務旧蔵資料および関連する資料群の詳細な書誌調査を実施し、その成果を年2回の研究会にて報告した。また、試験的に運用を開始した共有データスペース上で情報交換をおこないつつ、近世風俗文化学の再構築に向けたデータの蓄積を開始した。本研究プロジェクトが新たに発掘した新出資料についても、書誌および画像データを集積し、併せて「忍頂寺務年譜データベース」を充実させ順次発信していくための準備を進めた。

（2）活動記録

[研究会]

- ・日程 平成20年9月5日（土）～9月6日（日）
- ・場所 国文学研究資料館 第2会議室

9月5日（土）

参加者：武井・山下・福田・近衛・青田・鷺原・川端・尾崎・内田・飯倉

- ① 尾崎千佳 忍頂寺務と高田蝶衣
- ② 高橋則子 『[見立花づくし]』について
- ③ 青田寿美 鳶魚と忍頂寺務—西鶴輪講・江戸語彙をめぐる問題系—

9月6日（日）

参加者：飯倉・福田・近衛・青田・鷺原・川端・内田・尾崎、忍頂寺晃嗣氏（ゲスト）

3月13日

大阪大学にて第2回研究会を実施

発表者：福田・浜田泰彦（大阪大学大学院生）他

[資料調査]

青田寿美：忍頂寺文庫・小野文庫における蔵書印調査を数次にわたり行った。

内田宗一：小野文庫の書簡調査を数次にわたり行った。

尾崎千佳：洲本中学時代の忍頂寺務の文事について追究すべく、国会図書館・柿衛文庫・淡路文化史料館・洲本高校等の諸機関所蔵資料を調査。

鷺原知良：神戸市立中央図書館・小島資料館（東京都町田市）所蔵資料調査。

山本和明：忍頂寺文庫・小野文庫・国会図書館調査。

飯倉洋一：忍頂寺文庫音曲関係資料調査。

福田安典：国文学研究資料館調査。

[研究成果]

ホームページに今年度の成果を公表予定

[その他]

川端咲子・正木ゆみ：忍頂寺文庫蔵『開帳おどけ 仮手本忠臣蔵』天の巻の校訂本文作成と注釈作業を行う。

青田寿美：忍頂寺晃嗣氏より貸借した資料の撮影ならびに公開に向けた準備。「忍頂寺務年譜DB」の構築に向け、入力システムの整備とデータ採取。公募研究のホームページ作成、試験的運用を開始。

福田安典：寒川鼠骨の書簡に関する調査と分析

【久世家文書の総合的研究】

プロジェクト代表者：日下幸男（龍谷大学教授）

プロジェクト参加者：久保木秀夫、小林健二、浅田徹（お茶の水女子大学大学院准教授）、海野圭介（ノートルダム清心女子大学准教授）、岡村喜史（龍谷大学准教授）、西山美香（明治大学兼任講師）、藤本孝一（龍谷大学客員教授）、安井重雄（兵庫大学短期大学准教授）、五島敏芳（京都大学講師）

プロジェクト協力者：坂口太郎（京都大学大学院博士後期課程）、万波寿子（龍谷大学非常勤講師）、舟見一哉（神戸市立工業高等専門学校助教）

プロジェクト補助者：足立賀奈子（龍谷大学大学院博士後期課程）

（１）概 要

調査開始初年度は国文学研究資料館蔵久世家文書の調査を最優先とし、単独または共同調査を下記のごとくに実施した。研究会は特に実施しなかったが、調査時点で興味深い事実が発見される度に調査員同士で討議をし、久世家文書が持つ特徴を明らかにすべくつとめた。文書の書誌的事項は、当館の調査カードに記入し、そのコピーをメールの添付で調査員に配布し、調査の成果を全員が把握できるようにした。

（２）活動記録

〔資料調査〕

調査など実施状況

5月21日（木）

打ち合わせ：小林、久保木、浅田、海野、西山、日下（国文学研究資料館）

7月28日（火）

打ち合わせ：五島、日下（京都大学総合博物館）

9月1日（火）

久世本調査①：日下、西山、舟見、五島、浅田、安井、藤本

9月2日（水）

日下、西山、舟見、五島、安井、藤本、海野、足立

9月3日（木）

日下、西山、舟見、五島、藤本、海野、足立

9月4日（金）

日下、舟見、浅田、藤本、海野、足立

11月5日（木）

久世本調査②：日下

12月24日（木）

久世本調査③：日下

12月25日(金)

日下

12月26日(土)

日下

2月15日(月)~18日(木)

久世本調査④：日下、足立、万波、坂口

2月23日(火)~26日(金)

久世本調査⑤：日下、浅田、藤本、岡村、坂口、西山、安井、足立

3月12日(金)~13日(土)

久世本調査⑥：日下



情報事業センター

1. 調査収集事業部

【総括】

調査収集事業部では、今年度も国内外の研究者・研究機関等との緊密な協力のもとに、資料の特性を踏まえた調査と、それに基づく計画的な収集を実施した。具体的には、国内外の所蔵機関（102ヶ所）に存在する日本文学原典及びその関連資料の調査と、撮影（マイクロフィルムまたはデジタル撮影）による収集、及びアーカイブズ調査収集である。調査については、ほぼ年度当初に予定していたおりの成果を挙げることができた。収集については、予定点数の半分強の成果となった。

昨年度に引き続き本年度も「リプリント日本近代文学」第6期40点を刊行中である。

なお、調査収集の成果を共有し、更に広く社会に還元するため、平成18年度に始まった基幹研究「王朝文学の流布と継承」「十九世紀の出版と流通」は、本調査収集事業の成果を基盤とする共同研究として、順調な進捗状況を見せている。

【国内外の所蔵機関に存在する日本文学原典及びそれに関連する資料の調査・収集】

（1）日本文学原典及びその関連資料の調査・収集

平成21年度においては、約8,300点の調査、約2,570点の収集を行った。中心となる地域別調査・広域調査（計98ヶ所）のほか、先方機関と連携して行う連携調査（計4カ所）を行った。

（2）日本古典籍資料調査データベース

平成20年度に調査したカードを中心に、画像データ約6,600件、書誌データ約8,200件の入力を行った。現在約144,000件が利用に供されている。約10,000件ずつ蓄積する新規カードのデジタル化は、今後も継続する予定である。

（3）調査収集の成果としての刊行物

『調査研究報告』30号を刊行した。

また、オンデマンド出版による、開化期戯作など明治文学の復刻である「リプリント日本近代文学」第6期40点を刊行中である。

（4）調査収集の成果の共有と還元のための取り組み

調査収集の成果はこれまでもマイクロフィルム公開等の形で国文学研究に寄与してきたが、今後それを更に推進するための取り組みとして、平成18年度より当館の基幹研究として「文学資源の総合研究」という研究テーマのもとに「王朝文学の流布と継承」「十九世紀の出版と流通」の共同研究が始まり、本館の基幹をなす当事業との関連のもと、精力的な展開を示している。それぞれ調査員が共同研究者として加わり、5年間の共同研究を行うもので、本年度はその4年目を迎えた。また、調査収集に関わる研究成果を調査員に広く共有してもらうために、平成21年度国文学文献資料調査員会議において、シンポジウムを開催した。（内容は調査研究報告第30号に掲載した）

【アーカイブズ調査・収集】

（１） 目録による史料群所在情報の調査

全国の史料保存利用機関の史料群情報、目録情報・刊行状況の調査及び収集を行い、目録類を収集した。

（２） 史料の存在形態調査

史料存在形態情報の記述・整理、簡易的保存措置、目録作成・データベース作成、保存と利用のための基盤整備として、信濃国松代真田家文書（11）を収録した『史料目録』第90集を刊行した。

（３） 所蔵史料に関連する史料の調査及び収集資料

信濃国松代真田家文書に関連して真田宝物館の調査を行い、昨年に手書き目録を電子化してデータベースを作成したものを活用して調査の実施基盤を整備した。

松江藩関係の調査は、松江市との共同調査として、元松江藩家老三谷家の調査を実施した。

『史料目録』に関連しての調査を実施した。

（４） 現物史料の受け入れ

昭和22年に譲渡された陸奥国弘前津軽家文書（所蔵文書群番号 22B 23Y 26K-1）に関わる陸奥国弘前津軽家文書（2009 H）を東京古典会において購入した。点数26点の内容は、藩庁の文書管理記録の台帳である『壺番題帳』『御役所壺番筆筭題帳』等14冊、『（御老中）用控』3冊、領内諸寺の概要や什物の書上帳等で、1797（寛政9）年—1849（嘉永2）年の史料である。

この他、山田春枝氏寄贈による「岡村文次文書（2009 M）」を受け入れた。

2. 電子情報事業部

【総 括】

電子情報事業部は、情報システムの有効・適切な運用をはかり、研究および事業の成果を電子情報として組織化し、データベース化を進め、研究者、大学院生、社会一般に、インターネットにより提供している。さらに、国内外の関連研究機関などとの連携を進めている。

情報システム環境は、第7期情報システム計画（平成17-22年度）の第5年度に当たり、平成18年2月1日に第6期情報システムからリプレース後、現在順調に稼働している。

一年を通じて24時間不断の稼働を保持し、情報システムと情報資源の安定的な管理運用を行い、高い信頼を得ている。

今年度は、新たに1本のデータベースを公開し、現在26本のデータベースの公開を滞りなく行っている。データ追加、更新などは時機を見つつ可能な限り迅速に対応している。各データベースには、個々に責任者と担当者を置き、高信頼度のサービスを維持している。

一方、データベースと関連システムの保存、保守、更新など日々の管理運用業務は、学術情報課に属するシステム管理係と学術情報係が当たっている。また、データベースサービスシステムの運用管理を行っている。加えて、データベース利用に関わる評価のための利用統計等のデータ収集と分析を行い、データベース利用環境の向上に努めた。

デジタル画像公開に関して、今年度は「マイクロ／デジタル資料・和古書所蔵目録」からは収集マイクロ資料のデジタル画像として、祐徳稲荷神社、八戸市立図書館、西尾市岩瀬文庫の公開を開始した。また、「館蔵和古書画像データベース（試行版）」の画像データを「マイクロ／デジタル資料・和古書所蔵目録」からの画像公開システムへの移行作業を開始した。

電子情報事業部において、年度計画に応じた全事業は滞りなく進捗し、目標を達成し、利用者からも高い評価を得た。今年度も、情報システム環境の整備とデータベースを中心とする情報資源の機能拡充に寄与した。情報資源のホームページからの公開は、利用者、アクセス数等の増大、並びに各種意見や要望への対応により、高い社会性と公開性を達成した。

【電子情報事業部の運営】

（1）組織体制と運営

部長（古瀬蔵教授）を置き、副部長（野本忠司准教授）他、9名の教員の体制により事業を運営し、システム管理係、学術情報係が実務処理を担当した。

第8期情報システム入れ替えのための仕様策定委員会を開催し、仕様を策定中である。また、研究事業用システム端末入れ替えのための仕様策定委員会および技術審査会を開催し、導入を決定した。

各月1回、定期的に部会を行い、全事業の進捗度をチェックし、計画の実施状況の把握と評価に務めた。また、電子情報事業に関わる多種の事項について審議、立案等を行った。

（2）情報システムの運用管理

情報システムは、UNIX サーバおよび Windows サーバによる分散型システムと館内 LAN（基幹系 1 GB、支線系 100 MB）に接続されたクライアント PC とで構成され、主に館内の様々な情報処理、並びにインターネット経由による館外データベースサービス等に用いられている。

平成18年2月1日より、第7期情報システムが本格的に稼働を開始した。管理運用体制として、部長、副部長、他、9名の教員が当たり、実務、事務処理はシステム管理係並びに学術情報係が担っ

た。なお、システムの日常的な監視、操作、記録等の実務作業は、部長、システム管理系の指示により、外注SEに分担させた。

情報システムは、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークから構成されるが、これらそれぞれについて、ほぼ365日24時間不断の安定稼働を実現している。情報システムに関する実績評価分析は、システム稼働状況（サーバ稼働率、ディスク使用率、ネットワーク・トラフィック）による。また、情報システムに蓄積された日本文学とそれに関わるアーカイブズ研究資料情報等の資源監視、プロセス監視、ユーザ管理、バックアップの定期的な運用管理を行っている。とりわけ、情報システムで稼働しているデータベースの安定的稼働に努め、館内外の研究者等に重要なデータベースサービスを提供した。

平成22年2月1日より研究事業用システム端末（97台）及びプリンター（24台）の運用を開始した。特にセキュリティ、データ保守を重視し、システムソフトウェアのアップデートの一元管理、各PCデータの自動バックアップ等の仕組みを取り入れた。

平成20年2月1日より事務情報システム端末（37台）及びプリンター（8台）の運用を開始した。データ保守を重視し、各PCのデータ領域をファイルサーバ上に構築する仕組みを取り入れた。

（3） ネットワークシステムの運用管理

研究、教育、業務におけるネットワークシステムについて、障害に強く、かつ安定的な稼働に努め、また電子メール等へのウイルス進入に対する予防対策、緊急対応、システムの更新、パッチ等を可能な限り速やかに行い、対処し、高信頼性の運用を保持した。

第7期情報システムでは、とくにセキュリティ対策に万全を期すため、厳重な接続機器の管理を個々に行っている。また、セキュリティと利便性を両立させるため、スパムファイアウォールとSSL-VPNを運用している。

（4） 情報資源の運用管理

公開されている26本のデータベースの年間を通じて切れ目のない24時間安定的な稼働を行い、館内外の利用者の評価を得た。データベースによっては、時機を見つつデータの追加拡充を進め、また誤り等の更新を速やかに行っている。なお、これら情報資源の定期的なバックアップを行い、不測の事態に対しても十分な対応を行い、高信頼度の運用を行った。

（5） 情報サービスの向上

目的のデータベースへのアクセス数向上を進めるため、アクセス元情報等の利用統計分析、および、ウェブページのデザイン等の変更を行った。

【個別事業の実績、評価】

（1） 情報システムの運用管理

情報システムと情報資源のセキュリティ確保と安定的運用管理を行うため、以下のように業務を行った。

① 情報システムの運営

システムのオペレーション、バージョンアップ、パッチ作業等は、部長の指揮の下、システム管理係により実施した。監視と操作作業は外注SEにより行い、係において分析評価した。今年度においては、情報システムのハードウェア、ソフトウェア、オペレーションに起因する重大なシステム障害、およびネットワーク障害、さらに外部からの干渉（クラッキング等）による重大なシステム障害は発生していない。（システムの停止は、計画停電のために2回、パッチ一括適用のために1回、合計3回あった。）

一方、PC系、プリンタ系の障害等については、システム管理係および業者の保守窓口による対応を図った。

② 共同利用の推進

人間文化研究機構「研究資源共有化事業」に積極的に関わり、その責務を果たしている。また、人間文化研究機構に属する機関のうち、国文学研究資料館、国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館、国際日本文化研究センターとの安定的なシステム接続運用を行った。平成21年10月からは、新たに、国立国語研究所が同機構に編入した。

③ 情報セキュリティの推進

平成21年4月1日から情報セキュリティポリシーを策定し、運用を行った。また、利用者に対し、ポリシーの講習会を3回行った。

(2) データベースの管理運用

データベースと関連システムの保存と運用管理を行っている。また、研究系や他事業部が作成するデータベースと関連システムは、緊密な関係の下に、事業協力を行っている。

当館ホームページ「電子資料館」のページから公開しているデータベースは以下の通りである(各データベースの概要は付表1参照)。

- 図書・雑誌所蔵目録(OPAC)
- マイクロ/デジタル資料・和古書所蔵目録(これまで公開していたマイクロ資料・和古書目録データベースを高次化したデータベース)
- 国文学論文目録データベース
- 日本古典籍総合目録
- コーニツキー版 欧州所在日本古書総合目録
- 日本古典資料調査データベース
- 近代文献情報データベース(近代書誌・近代画像データベース、明治期出版広告データベース)
- 古筆切所収情報データベース
- 和刻本漢籍総合データベース
- 連歌・演能・雅楽データベース
- 古典学統合データベース(芳賀人名・地下家伝)
- 伝記解題データベース
- 日本文学国際共同研究データベース(イタリア論文データベース、日本学研究データベース、など)
- 収蔵アーカイブズ情報データベース
- 「史料所在情報・検索」システム
- 史料情報共有化データベース
- 伊豆韮山江川家文書データベース
- 館蔵神社明細帳データベース
- 日本古典文学本文データベース
- 古典選集本文データベース(二十一代集データベース、吾妻鏡データベース、絵入り源氏物語データベース)
- 古事類苑データベース
- 歴史人物画像データベース
- 新奈良絵本画像データベース

- 実業史絵画データベース
- 館蔵和古書画像データベース
- アーカイブズ学文献データベース※

〈注〉 ※印を付した1本のデータベースは、今年度公開を開始。

(データベース利用統計は付表2を参照)。

上記の各データベースは、データベース管理簿を作成し、整理し、管理している。とくに、知的財産権に関わる権利関係を明確にした。また、人間文化研究機構全体のデータベース台帳の作成に協力し、現在、公開中、試験公開中等の当館の約50本のデータベースが収載されている。

付表1 HP「電子資料館」から公開しているデータベース

書 誌 目 録	図書・雑誌所蔵目録 (OPAC)	当館所蔵の明治期以降の図書、雑誌 (逐次刊行物) の目録データベース。図書約 97,700 件、雑誌約 6,700 タイトル。
	マイクロ/デジタル資料・和古書所蔵目録	当館所蔵のマイクロ/デジタル資料 (国内外の大学・図書館等所蔵の古典籍をマイクロ・デジタル撮影し、収集した資料) と和古書の目録データベース。検索結果から、古典資料調査データ及び原本、館蔵貴重書のデジタル画像ヘリンクあり (一部)。マイクロ/デジタル資料約 210,900 件、和古書約 14,600 件。
	国文学論文目録データベース	国文学関係論文 (大正元年～平成 19 年) の目録データベース。約 463,000 件。
	日本古典籍総合目録	日本の古典籍の書誌・所在についての情報を、著作・著者についての情報 (典拠情報) とともに提供する総合目録データベース。『国書総目録』所載の所在・翻刻複製情報 (写本、版本、活字・複製・謄写本) を併せて表示。書誌情報には、当館所蔵和古書とマイクロ/デジタル資料 (国内外の古典籍を撮影収集した資料) も含む。著作約 457,000 件、著者約 68,000 件、書誌約 461,000 件。
	コーニツキー版 欧州所在日本古書総合目録	欧州各国の図書館・美術館・博物館等所蔵の「日本の和装本」の書誌・所在情報データベース (ケンブリッジ大学のピーター・コーニツキー教授が収集・整理されたデータを順次追加・更新)。一部原本画像の公開もあり。約 12,000 件。
	日本古典資料調査データベース	当館が 30 年にわたり調査してきた国内外の大学・図書館・文庫等所蔵の写本・版本等の「文献資料調査カード」から主要な書誌情報を抽出したデータベース (調査カード画像も参照可能)。約 144,000 件。
	近代文献情報データベース	「近代書誌・近代画像データベース」及び「明治期出版広告データベース」(平成 10 年度より開始した、明治期以降の国文学を中心とした文献資料の調査・収集の成果を公開)。書誌約 22,400 件、画像約 1600 件、出版広告約 28,000 件。
	古筆切所収情報データベース	『古筆切提要』以後に影印刊行された古筆切類の所収情報データベース。約 23,000 件。
	和刻本漢籍総合データベース	当館収集のマイクロ資料中の和刻本の序跋刊記情報と所蔵和刻本の画像等を提供するデータベース
	連歌・演能・雅楽データベース	寄託データベースである連歌データベースと演能データベースを連結し、新規作成の雅楽データベースを添えてセットにしたデータベース
	古典学統合データベース (芳賀人名・地下家伝)	日本の古典研究に関わる人物情報をデータベース化。現在、芳賀矢一 (1867-1927) 編『日本人名辞典』(1914) と [三上景文著; 正宗敦夫 (1881-1958) 編纂校訂『地下家伝』(日本古典全集刊行会、1937.9-1938.8) 6 冊をデータベース化したものを搭載。
	伝記解題データベース	当館所蔵の典籍やマイクロフィルムに収載される人物伝・人物叢伝の内容の解題と、どんな人物が収載されているかをデータベース化
	日本文学国際共同研究データベース	科研費基盤研究 (S)「国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信」により構築された、海外の研究論文目録や論文画像のデータベース、翻訳作品データベース等

	<div>収蔵アーカイブズ情報データベース</div> <div>史料館旧蔵の資料群を中心とした当館収蔵歴史資料（アーカイブズ）の概要データベース及び資料目録データベース</div> <div>「史料所在情報・検索」システム（試験公開）</div> <div>国内各地に伝来する資料群の所在・概要情報データベース（詳細版は利用登録制）</div> <div>史料情報共有化データベース</div> <div>国内外で公開されている資料群（アーカイブズ）情報のデータベース（歴史資料を公開する各収蔵機関による共同構築）</div> <div>伊豆荏山江川家文書データベース</div> <div>このデータベースは、財団法人江川文庫が所蔵する古文書・文芸関係の目録情報を同文庫との協業により公開するものです。</div> <div>館蔵神社明細帳データベース</div> <div>当館所蔵の戦前期における全国の神社明細帳に関する神社名・所在地・社格に関するデータベース。内務省管轄の公簿として作成された原本は当館において閲覧提供している。43,187 件</div> <div>アーカブズ学文献データベース</div> <div>アーカイブズ学に関する国内研究文献のデータベース。個々の文献で章立てがあるものは「内容」に全て採録。11,000 件</div>
本文	<div>日本古典文学本文データベース（試験公開）</div> <div>『日本古典文学大系』（旧版、岩波書店刊）の全作品（100 巻 580 作品）の本文（テキスト）データベース（利用登録制）</div> <div>古典選集本文データベース</div> <div>当館所蔵本を底本とした原本テキストデータベース。全文検索、泣き別れ検索が可能。現在、「二十一代集」「絵入源氏物語」「吾妻鏡」の 3 データベースを公開</div> <div>古事類苑データベース</div> <div>完成から約 1 世紀が経とうとしているにもかかわらず、日本最大規模の地位を今なお保ち続けている百科事典『古事類苑』のデータベース。「天部」試験公開版、全文検索が可能となったバージョン（横書き）『天部』『歳時部』と、『地部一』（国際日本文化研究センター作成）を公開。</div>
	<div>歴史人物画像（古典キャラクター）データベース</div> <div>国書古典籍中の絵入り叢伝から古典キャラクターの人物画像を集めてデータベース化したもの。おもに明治以前のものから挿絵の古典キャラクター画像（約 3100 名・4700 件）のみを切り出し、各人物がどのように描かれてきたかを比較対照できる。</div> <div>新奈良絵本画像データベース</div> <div>当館所蔵の奈良絵本（11 本）の原本画像データベース（翻刻付）</div> <div>実業史絵画データベース</div> <div>日本実業史博物館設立準備室旧蔵絵画データベース</div> <div>館蔵和古書画像データベース（試行版）</div> <div>当館所蔵の和古書（写本・版本等）の画像データベース。簡易目録と連携し、和古書約 5,600 件の検索と画像閲覧が可能。</div>
	画像

(平成 22 年 2 月末現在)

[illegible]

データベース名	種 類	21年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
(16-2) 二十一代集データベース ※2010.2.16 移行	検 索 件 数 (i)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	339	1,158	1,497
(17-1) 吾妻鏡データベース	検 索 件 数 (o)	* ログ収集方法検討中												—
(17-2) 吾妻鏡データベース ※2010.2.16 移行	検 索 件 数 (i)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	163	301	464
(18-1) 絵入り源氏物語データベース	検 索 件 数 (o)	* ログ収集方法検討中												—
(18-2) 絵入り源氏物語データベース ※2010.2.16 移行	検 索 件 数 (i)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	226	355	581
(19-1) 古事類苑データベース (試験公開版)	ページ閲覧数 (a)	41,895	50,720	42,248	45,523	30,181	26,054	27,188	43,676	23,392	27,201	23,292	27,561	408,931
(19-2) 古事類苑データベース (全文検索版)	検 索 件 数 (i)	8	351	618	384	296	199	348	305	285	325	285	369	3,773
(20-1) 歴史人物画像データベース	ページ閲覧数 (a)	57,805	51,139	35,659	30,935	31,218	32,155	35,650	39,000	32,372	37,986	29,158	26,948	440,025
(20-2) 歴史人物画像データベース	検 索 件 数 (i)	1,771	2,433	1,402	1,797	2,520	2,180	2,514	1,295	1,250	1,104	1,027	1,038	20,331
(21) 新奈良絵本画像データベース	ページ閲覧数 (a)	44,238	46,108	60,983	47,499	46,056	45,499	57,247	54,475	52,775	69,397	60,723	54,001	639,001
(22) 実業史絵画データベース	利用回数 (o)	8,205	8,178	9,011	5,348	5,271	6,220	11,651	8,854	9,052	7,379	9,256	5,085	93,510
(23) 館蔵和古書画像データベース	検 索 件 数 (a)	423	1,032	442	477	435	494	482	353	393	602	384	574	6,091
(24) 古典学統合データベース	検 索 件 数 (i)	298	516	406	398	323	367	193	243	333	330	590	575	4,572
(25) 伝記解題データベース	検 索 件 数 (i)	83	150	166	137	105	98	104	125	92	139	274	380	1,853
(26) 国際日本文学共同研究データベース	検 索 件 数 (i)	63	94	50	64	34	112	95	127	107	130	963	2,581	4,420
(27) 館蔵神社明細帳データベース	検 索 件 数 (i)	175	167	201	236	271	291	522	207	148	268	284	515	3,285
(28) アーカイブズ学文献データベース ※2009.7.24 公開	検 索 件 数 (i)	—	—	—	409	379	478	424	423	353	268	287	497	3,518

データベースサービスシステム総合窓口業務 件数

Web 受付	15	8	14	8	15	12	13	12	7	6	7	5	122
e-mail 受付	8	17	21	14	11	12	20	16	20	16	21	20	196

動作環境 (i) : InfoLib (a) : apache (o) : 独自サーバ

3. 情報資料サービス事業部

【総括】

館蔵和古書のデジタル画像撮影及び公開を進め、館蔵・収集資料のデジタル化の方針も定めた。デジタル画像公開に関しては、収集マイクロから作成したデジタル画像について、昨年度公開した祐徳稲荷神社、八戸市立図書館分について画像を追加するとともに、新たに西尾市岩瀬文庫について公開を開始した。当館所蔵貴重書についても画像を追加するとともに、当館所蔵和古書についても順次画像の公開を開始した。

画像公開システムにサイズ変更の継承機能を加えたほか、「マイクロ／デジタル資料・和古書所蔵目録」についてもヘルプ機能の充実などの改修を行い、目録検索結果から画像閲覧までの表示について、現行システムで出来る範囲の改善をおこなった。

閲覧サービスに関しては閲覧者数、複写件数とも昨年度の同時期より多く、特に学生によく利用された。また、要望が高かったセルフコピー機を2台に増設した。

永久保存マイクロフィルム保管設備を完成させた。また、劣化マイクロフィルムの複製作成を平成17年度から重点的に継続して行い、複製が必要なもののうち、3分の2以上が終了した。

【図書資料の収集】

(1) 概要

図書資料委員会で所蔵資料全体を考慮して計画を立て収集している。原本の収集については、奈良絵本「宇津保物語」5巻揃、「役者絵尽し」（稀書複製会本底本）などを新たに購入した。

(2) 活動記録

図書資料の体系的な収集に努めた。受入統計は以下のとおりである。

資料1 図書資料受入統計

資料種別		日本文学関係				歴史関係			
		点数等		冊数等		点数等		冊数等	
		平成21年度	累積	平成21年度	累積	平成21年度	累積	平成21年度	累積
収集 マイクロ資料	マイクロフィルム	2,074点	183,343点	258リール	40,840リール	0件	188件	0リール	5,852リール
	マイクロフィッシュ	0点	16,667点	0枚	57,358枚	—	—	—	—
	紙焼写真本	—	—	5,531枚	75,021冊	—	—	0冊	11,196冊
図 書	写本・版本	253点	10,734点	801冊	36,494冊	—	—		—
	活字本・影印本等	—	—	1,947冊	96,363冊	—	—	887冊	63,523冊
	逐次刊行物	1,442誌	5,772誌	4,804冊	175,003冊	537誌	—	1,415冊	76,250冊
所蔵史料		—	—	—	—	13件	446件		約500,000点
寄託資料・寄託史料		1件	10件	3冊	14,592冊	0件	17件	0件	7,032点

【図書資料の受入・整理】

(1) 概 要

今まで OPAC で公開していなかった歴史関係の図書・逐次刊行物を公開するため、昨年度から着手した逐次刊行物に続き、今年度から図書の遡及入力を開始した。

マイクロ資料の目録作成に関しては、滞貨の解消に努めているが、今年度は、約 1,900 件の書誌データの登録を行った。また、平成 20 年度に受贈した歴史民俗博物館所蔵高松宮家伝来禁裏本の紙焼写真（約 81,000 コマ）について、製本を行うとともに書誌データ作成を進めている。

また、学術企画連携部による日本古典籍講習会（国立国会図書館と共催）で、古典籍の整理方法について、当館データベースを利用した目録作成の普及を図っている。

(2) 活動記録

以下の活動を行った。

① 貴重書・特別コレクションの指定

新たに貴重書 10 点、特別コレクション 1 点を指定した。

資料 2 新指定貴重書・特別コレクション

項 目	請求記号・ 文庫番号	書 名
貴 重 書	99-134	十一面神呪心経（刊、1 帖）
	99-135	源氏物語 絵角（写、1 冊）
	99-136	古筆手鑑（写、1 帖）
	99-137	隆達小歌集（写、1 冊）
	99-138	三体詩法（刊、3 冊）
	99-139	みなつる（写、1 冊）
	99-140	杉山肥前掾人形芝居小屋前の図（写、2 枚折り屏風）
	99-141	沙石集（写、3 冊）
	99-142	唐土名勝図会稿本（写、6 冊）
	99-143	宇津保物語（写、5 軸、奈良絵本）
特別コレクション	94	関根正直手稿本類

② 資料の整理・目録作成

a. マイクロ資料目録作成

・書誌データ作成	約 5,000 件
・書誌データ登録	約 1,900 件
・データベース移植時の未コントロール分処理	約 1,800 件
・高松宮家伝来禁裏本紙焼写真製本	約 700 点

資料3 マイクロ資料目録データベース登録一覧

文庫番号	所蔵者	サービス区分	540-582	件数
48	名古屋市蓬左文庫	B'	620-638	41
99	高知県立図書館（山内文庫）	A	177-203	190
222	三原市立図書館	A	110-130	56
260	東京都立中央図書館（東京誌料）	B'	紙焼写真	120
296	尊経閣文庫	E	5-7	30
314	山寺芭蕉記念館	A	283-326	68
324	新潟大学附属図書館（佐野文庫）	B'	6-13	644
331	山梨県立図書館（甲州文庫）	B	83-102	155
346	百々御所文庫	E	116-154	82
348	南方熊楠邸保存顕彰会	B'	17-22	142
350	郡山城史跡柳沢文庫保存会	B'	1-94	88
365	韓国国立中央図書館	D	1-18	241
376	周南市立図書館（岩崎文庫）	C	50-60	38
ミ2	光藤益子	A	540-582	26
				1,921

b. 和古書・明治期資料の整理

- ・和古書の整理 610 点
- ・明治期資料の整理 238 点
- ・和古書目録書誌データ作成（登録） 366 点
- ・明治期資料の書誌データ作成（登録） 795 点

c. 活字本・影印本の整理・目録作成 4,907 冊

d. 歴史関係図書・逐次刊行物の遡及入力

・歴史関係逐次刊行物

昨年度から遡及入力が必要な歴史関係の逐次刊行物約 2,900 タイトルの入力を開始している。今年度は約 790 タイトルを入力し、現在約 1,900 タイトルが検索可能となっている。

・歴史関係図書

今年度から歴史関係図書約 43,000 冊についても遡及入力を開始し、約 14,000 冊が OPAC で検索可能となった。

【資料の保存】

（1）概 要

原形を尊重した保存・修復措置を継続的に行っている。受入資料の害虫処理については、窒素発生装置を使用した害虫処理を定常業務化することができた。

（2）活動記録

① 文書・記録類の保存・修復処置

- a. 史料目録刊行済みのものについて、閲覧用ラベル貼付、中性紙封筒・帙・箱等への収納、状態調査記録作成、虫損・剥離箇所への部分修復処置等を行った。……3,774 点

（「尾張国海西郡鰐浦村木下家文書」「信濃国松代真田家文書」「信濃国松代真田家中依田家文

書」「陸奥国弘前津軽家文書（追加分）」「紀伊国伊都郡慈尊院村慈尊院中橋家文書（追加分）」等）

- b. その他、必要に応じて別置分の組込、中性紙封筒・箱等への入替、部分修復処置等を行った。
……21,740 点

（「守屋栄夫文書」「陸奥国白河郡踏瀬村箭内家文書」「山城国京都久世家文書」等）

- c. 移転用段ボール箱から中性紙保存箱への入替作業は、ほぼ終了した。次いで確認作業を継続している。

② 古典籍原本の保存・修復処置

a. 新収資料の害虫処理

従前からの無酸素による害虫処理に加えて、購入窒素発生装置を使用した害虫処理を定常業務化させ、多量の受入資料も内部で害虫処理ができる体制を整えた。

b. 補修

虫損が著しく閲覧が困難な高乗勲文庫の『標題徐状元補註蒙求』（写 7 冊）ならびに『西院河原口号伝』（刊 5 冊）の補修を専門家に依頼した。

③ マイクロフィルムの保存

a. 劣化フィルムの複製

劣化が進みつつあるトリアセートベースフィルム 7,915 リールの複製を実施した。複製が必要な永久保存マイクロフィルムは残り 8,250 リールとなった。

b. 永久保存マイクロフィルム保管設備完成

永久保存マイクロ保管庫に棚を設置し、永久保存のマイクロフィルム及びデジタル画像のハードディスクや DVD を格納できるようにした。外部保管委託していた永久保存マイクロフィルムを年度末に運び入れた。

【利用者サービス】

（1）概 要

① 所蔵和古書のインターネットでの画像公開

- ・デジタル撮影は、昨年度の貴重書 25 点、一般和古書 176 点に引き続き、今年度は貴重書 8 点、特別コレクション（懐風弄月文庫・長谷章久旧蔵書・臼杵藩吉田家歴代詩文・橋本進吉旧蔵書・高乗勲文庫）188 点、一般和古書 2 点を実施し、順次公開している。
- ・館蔵和古書画像データベース（試行版）で公開しているマイクロフィルムからデジタル化した画像について、「マイクロ／デジタル資料・和古書所蔵目録」からアクセスできるよう移行を進めている。
- ・マイクロフィルムからのデジタル化は、そのほかに特別コレクションの初雁文庫や日本漢詩文集コレクションに着手した。

② セルフコピー機増設

12 月から利用者自身が文献複写を行うセルフコピー機を 1 台から 2 台に増やした。

（2）活動記録

① 資料の閲覧及び複写

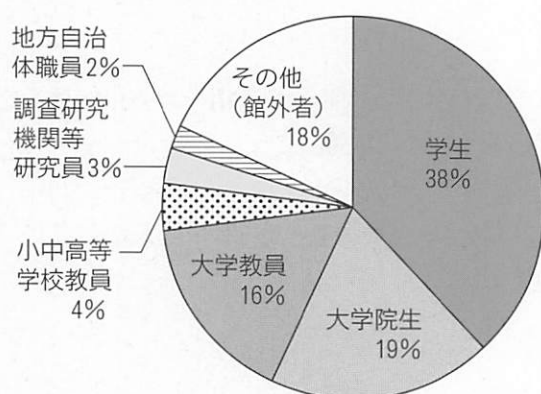
開館日数は 251 日、新規登録者は 1,806 人、来館利用者数は 7,013 人で、昨年度に比べ来館者が増加した。身分別の割合をみると大学生が例年に比べ多く、そのためか、年度当初からセルフコピーの件数が多く、セルフコピー機増設の要望が多く寄せられ、12 月から 2 台態勢になった。昨年度から

混み合う時は ILL（大学図書館を通じての複写申込）や代行コピー用に職員が使用している複写機もセルフコピー用に充てていたため、複写が集中したときは3台で対応できるようになった。

複写統計には郵送や FAX での個人からの複写申込が含まれているが、セルフコピーを除く複写件数の28%に達し、来館せずに複写を申し込む傾向がより一層増えている。

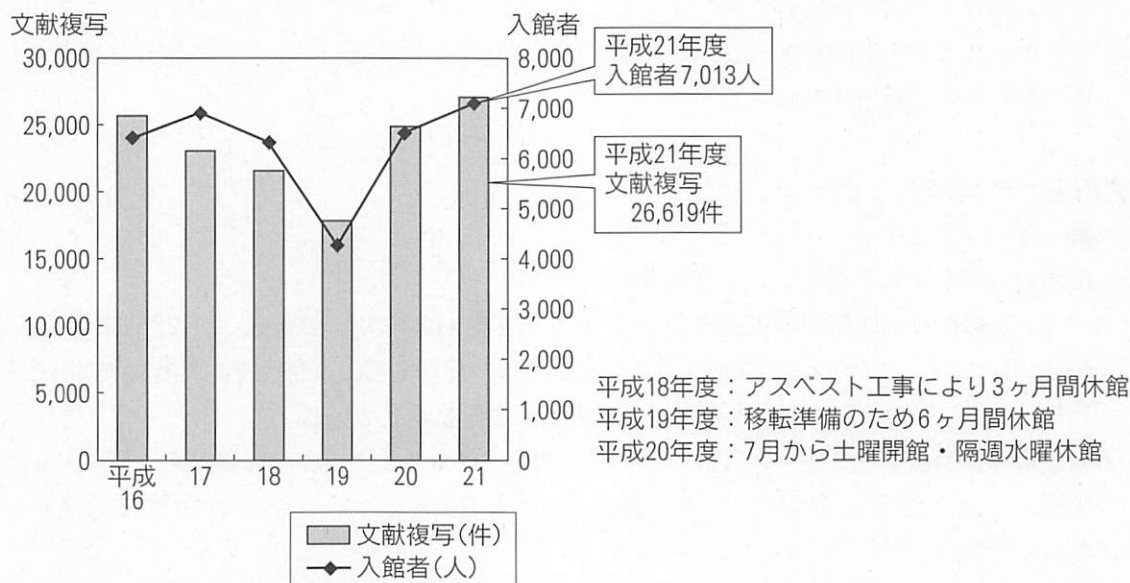
また、昨年度に比べ、和古書・史料（文書・記録類）の閲覧が増加した。

資料 4 来館利用者の構成



利用者内訳	平成 21 年度
学 生	2,636
大学院生	1,338
大学教員	1,126
小中高等学校教員	294
調査研究機関等研究員	203
地方自治体職員	138
その他（館外者）	1,278
総 計	7,013

参考資料 来館利用状況の推移



② 相互協力サービス

今年度は、来館利用が増えたかわりに図書館を通しての文献複写受付が減っている。他館との比較では、ILL 文献複写受付件数は、受付をした参加組織 1,145 館中 52 位、人文系の専門図書館としてはトップであり、資料の共同利用に貢献していることは変わらない。

資料 5 相互協力件数

項 目		受 付		依 頼
貸借	図 書	40 件、43 点、50 冊		16 件 16 点
	紙焼写真本	6 件、13 点、13 冊		21 冊
複写	電子複写	2,785 件	19,568 枚	7 件
	RP による電子複写	658 件	72,175 枚	48 件
	フィルム複製	3 件	179 コマ	3 件
	紙焼作製	一件	一枚	4 件
	合 計	3,446 件	91,922 枚	62 件

参考資料 相互協力文献複写受付比較



③ レファレンスサービス

日本文学・歴史資料分野のレファレンスサービスを継続しておこなった。

資料6 レファレンスサービス件数

質問の種類		件数
文書による質問		24
メールによる質問	総合窓口システムへの質問	120
	問い合わせメール	196
電話による質問	所蔵調査	178
	利用についての問い合わせ	468
	内容調査	86
クイック・レファレンス（閲覧カウンターでの質問）		797
合 計		1,869

参考資料 レファレンス総合窓口システムへの問い合わせ内訳

区分	職業	1. 教員	2. 大学院生	3. 大学・短大・高専	4. 高校生	5. 中学生以下	6. その他一般		合 計
		17	22	8	0	0	73	0	120
	種 別	1. 参考	2. 利用案内	3. 所蔵案内	4. HP 上の障害	5. HP 上の操作	6. その他		合 計
		31	49	16	3	1	20		120
	回答法	1. カウンター	2. 電話	3. Web	4. e-mail	5. Fax	6. 書面	7. その他	合 計
		0	0	114	5	0	0	1	120

※職業欄は受付日基準でカウント、種別及び回答法は回答日基準でカウント

④ 掲載許可申請受付（今年度決裁分）

規程を改正し、科研費による研究報告等の用途に供する場合を写真掲載の料金免除の項目に追加した。写真掲載のうち数種の要件に該当した 72 件は無償、また翻刻掲載はすべて無償である。

- ・ 翻刻掲載 19 件
- ・ 写真掲載 167 件

⑤ 資料の展示貸付（展示開始が今年度のもの） 4 件

資料7 展示貸付一覧

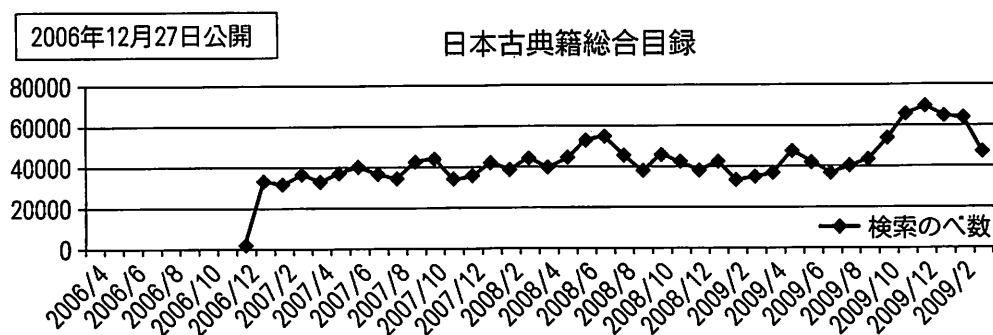
貸出機関	展示内容	展示期間	貸出資料	点数
横浜市歴史博物館	海賊 室町・戦国時代の東京湾と横浜	平成 21 年 4 月～5 月	山本家系図（越前史料のうち）ほか	9
江戸東京博物館	江戸東京ねこづくし	平成 21 年 8 月～9 月	珍猫百覧会開筵（明治本）	1
安城市歴史博物館	徳川家康の源流 安城松平一族	平成 21 年 10 月～12 月	城築規範（陸奥国弘前津軽家文書のうち）	1
行田市郷土博物館	徳川三代と忍藩	平成 21 年 10 月～11 月	大河内家譜（大河内家寄託資料のうち）ほか	8

【古典籍総合目録事業】

(1) 概要

『国書総目録』（岩波書店刊）を継承発展させるものとして、古典籍総合目録作成事業を行っている。その成果として『古典籍総合目録』（当館編・岩波書店刊）を刊行し、他方、データベースを公開している。平成 18 年末に従来の「国書基本データベース（著作編）」「古典籍総合目録データベース」を統合し、マイクロ資料目録データベースを含めた「日本古典籍総合目録」データベースを公開し、古典籍の書誌・所在情報を、著作及び著者の典拠情報とともに広く提供している。

参考資料 「日本古典籍総合目録」利用統計



(2) 活動記録

下記のとおりデータ作成等を実施した。

- ① データソースの収集、所蔵者との連絡（書誌情報の古典籍総合目録データベース収載公開についての依頼等）
- ② 書誌データの作成（登録） 約 9,000 件
- ③ 基礎データ（典拠データ）追加・改訂
- ④ 公開データベースの更新
- ⑤ 高次化画像公開システムについて以下の改修を行った。
 - ・画像サイズ変更の場合、コマ送り後も引き続き変更サイズを継承する機能の追加
- ⑥ 「マイクロ／デジタル資料・和古書所蔵目録」について以下の改修を行った。
 - ・ヘルプ機能の充実：検索結果詳細画面で、各項目毎にヘルプ機能を追加
 - ・資料形態別（マイクロ・紙焼・デジタル）に表示項目の分割
- ⑦ 業務データベースシステム（マイクロ目録・館蔵和古書目録・古典籍総合目録で共用）について以下の改修を行った。
 - ・入力チェック機能の追加
 - ・入力支援機能の追加

資料9 古典籍総合目録データ作成 所蔵者・目録一覧

所蔵者	コレクション	目 録	データ数	
宮城県図書館	小西文庫	宮城県図書館蔵 小西文庫和漢書目録（昭和58年刊 特殊文庫目録 第1冊）	47	
宮城県図書館	伊達文庫	宮城県図書館蔵伊達文庫目録（昭和62年刊）	1,880	
龍谷大学附属図書館大宮分館	写字台文庫ほか	龍谷大学大宮図書館和漢古典籍分類目録 総記・言語・文学之部	3,543	入力中
東海大学中央図書館	桃園文庫	桃園文庫目録（昭和61年刊）	1,148	入力中
皇學館大学神道研究所	毎文社文庫	原田敏明先生旧蔵毎文社文庫目録（平成8年刊）	213	
高野山大学図書館	大山文庫	大山文庫目録（平成3年刊）	24	
富山市立図書館	山田孝雄文庫	山田孝雄文庫目録（平成19年刊）	395	入力中
大阪歴史博物館	羽間文庫	大阪歴史博物館所蔵羽間文庫古典籍・古文書目録（平成16年刊）	1,729	
宮城教育大学附属図書館		宮城教育大学所蔵管理換図書目録（国語関係）・和漢書古典目録（拾遺）（昭和61年刊）	17	
合 計			8,996	

4. 学術企画連携部

【総 括】

学術企画連携部は、講演、展示、シンポジウム、セミナー等の各種イベントを通じて、館の学問的成果を広く社会に還元し、社会貢献を具体的に実現することを任務としている。あわせて国際的連携を多様に行う館の取り組みも盛り込み、その活動はそのまま国際社会への貴重な貢献を担っている。

平成21年度において、各事業を以下のとおり実施し、その目的を十分に達成することができた。

また、平成22年度からの第2期中期目標・中期計画期間においても、第1期と同様に優れた研究成果を発信して行き、社会への還元を図るとともに、当館の知的財産として蓄積していく予定である。

国際交流室

○概 要

平成21年度の国際交流事業は、昨年度までと同様に国際シンポジウムの開催、研究者の受け入れ、学術交流協定の締結などを中心に、活発に実施されたといえる。

特に、高麗大学校日本研究センター（大韓民国）と学術交流協定を締結し、今後、高麗大学校日本研究センターの教員を中心とした韓国の日本古典文学研究者との共同調査・研究のかたちで推進することが検討されている。

○活動記録

【国際シンポジウム等の開催】

(1) 日台共催シンポジウム「キャラクターの古典化」

日 程：平成21年5月17日

場 所：台湾大学文学部国際会議室

目 的：研究プロジェクト「古典形成の基盤としての中世資料の研究」の研究活動の一環とした国際シンポジウムで、台湾大学日本語文学科と当館が共同主催した。

参加者：74 名

(2) 第 33 回国際日本文学研究集会「語られる人称・なぞらえる視点」

日 程：平成 21 年 11 月 28 日～29 日

場 所：当館大会議室

目 的：日本文学研究に対する、海外からの客観的かつ新鮮な視点を受け容れつつ、日本文学研究のあるべき姿を広い視野から探り、その国際的展開を目指し、毎年秋に開催している。

参加者：97 名（延べ人数）

【海外研究者の受入】

(1) 外国人研究員の招聘

① 文学形成研究系客員教授 陳明姿（台湾大学日本語文学科教授）

招へい期間：平成 21 年 6 月 20 日～平成 21 年 9 月 19 日

所属研究系：文学形成研究系（客員教授）

研究プロジェクト名：古典形成の基盤としての中世資料の研究

② 文学資源研究系教授 陳先行（上海図書館研究館員（教授））

招へい期間：平成 21 年 11 月 1 日～平成 22 年 1 月 31 日

所属研究系：文学資源研究系（客員教授）

研究プロジェクト名：和刻本（五山版・近世初期刊本）の研究

【学術交流協定締結】

高麗大学校日本研究センター（大韓民国） 平成 21 年 11 月 25 日締結

【海外機関との交流】

(1) 海外機関からの視察

① オマール・ボンゴ大学（ガボン共和国）准教授 ミカラ ギィノーノエル氏

実施日：平成 21 年 12 月 9 日

目 的：同センターと当館の学術交流の可能性を探るため。

② フランス高等研究院（フランス共和国）宗教学部長 フィリップ・オフマン氏

実施日：平成 21 年 12 月 29 日

目 的：資料保存とその活用について意見交換及び資料保存施設の見学

(2) 国際会議等への参加

今西祐一郎 5 月 日台共催シンポジウム「キャラクターの古典化」に参加（台湾）

武井 協三 5 月 //

相田 満 5 月 //

陳 捷 6 月 フランス極東学院主催出版史学会に参加（フランス共和国）

加藤 聖文 6 月 東亜歴史財団主催「間島協約締結 100 年記念国際学術会議」において報告（大韓民国）

渡辺 浩一 6 月 英米歴史家会議に参加（連合王国）

山口 優子 7 月 台湾日本語文学会七月例会において発表（台湾）

野本 忠司 7 月 国際会議 SIGIR において発表（アメリカ合衆国）

野本 忠司 8 月 国際会議 ACL-IJCNLP 2009 に参加、EMNLP 2009 において発表（シンガポール共和国）

今西祐一郎 9 月 コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所創立 50 周年記念シンポジ

ウムに参加（フランス共和国）

久保木秀夫	9月	〃
谷川 恵一	9月	〃
寺島 恒世	9月	〃
陳 捷	9月	国際学術検討会に参加（台湾）
伊藤 鉄也	9月	EAJRS において発表（連合王国）
大内 英範	9月	〃
鈴木 淳	9月	国際シンポジウム「日本近世文学・文芸の中心と周縁」に参加（大韓民国）
入口 敦志	9月	浙江工商大学日本文化研究所における国際シンポジウムにおいて発表（中華人民共和国）
今西祐一郎	9月	日本文学の国際的共同研究基盤の構築に関する調査研究の国際研究会議に参加（連合王国）
小林 健二	9月	イタリア日本文学研究集会、AISTUGIA、ヴェネチア大学との日本文芸合同研究集会に参加（イタリア共和国）
武井 協三	9月	〃
船崎多恵子	9月	〃
山下 則子	9月	〃
相田 満	10月	PNC 2009 において発表（台湾）
陳 捷	12月	学会において発表（中華人民共和国）
伊藤 鉄也	2月	第5回インド日本文学会において発表（インド共和国）
今西祐一郎	2月	第5回インド日本文学会において講演（インド共和国）
江戸 英雄	2月	第5回インド日本文学会において発表（インド共和国）
加藤 聖文	3月	台湾中央研究院主催国際シンポジウムにおいて報告（台湾）
今西祐一郎	3月	ワークショップ「集と断片」に参加（フランス共和国）
木村 裕樹	3月	〃
齋藤真麻理	3月	〃
谷川 恵一	3月	ワークショップ「集と断片」において発表（フランス共和国）

展示企画室

【展 示】

(1) 通常展示「和書のさまざま」

概 要：《本》のさまざまな形態を体系的に紹介しながら、日本の古典籍がどのように読み伝えられて来たのかを当館所蔵資料を使い展示した。

日 程：平成 21 年 4 月 27 日（月）～6 月 19 日（金）

場 所：当館展示室

鑑賞者：899 名

(2) 人間文化研究機構連携展示「百鬼夜行の世界」

概 要：近年、想像力の文化や精神世界への関心の高まりとともに、その一環としての怪異や妖怪画が注目を集め学際的な研究が展開されている。国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館、国際日本文化研究センターでは、これまで怪異・妖怪に関する共同研究や異界についての企画展示を開催し、関連する資料の収集を行っていた。本展

示では、「百鬼夜行絵巻」を中心に引き上げ、その発生と展開、影響関係を体系的に展示し、最新の研究成果を国内外に発信することを目的とした。

日 程：平成 21 年 7 月 18 日（土）～8 月 30 日（日）

場 所：当館展示室

鑑賞者：3,712 名

特別鑑賞料：大人 300 円 高校生以下は無料

(3) 特別展示「江戸の長編読みもの一読本・実録・人情本一」

概 要：本展示では、主として江戸時代後期（19 世紀前半）に流布した〈後期戯作〉のうち、読本・実録・人情本の 3 ジャンルをとり上げ、当館研究プロジェクトの成果として、〈近世小説〉諸ジャンルのうち初めての本格的長編小説と見なされる〈後期読本〉が、いかにして〈読本様式〉を整え、〈後期戯作〉の中心的なジャンルと見なされるに至ったか、その流れを主体として構成した。

また、並行して、同時期に多くの読者を得た実録写本を紹介し、読本に与えた影響について触れるとともに、女性読者にアピールした人情本が、読本から派生して、洒落本・滑稽本・実録などの影響を受けながら新ジャンルを形成していく過程を追いつながら、珍しい文政期人情本を紹介する展示を行った。

日 程：平成 21 年 9 月 25 日（金）～10 月 23 日（金）

場 所：当館展示室

鑑賞者：503 名

(4) 特別展示「物語の生成と受容」

概 要：かな文字の誕生により日本語の書記能力が高まった平安時代は、虚構の世界の中で生きる人びとの真情や言葉を細かく書き表し、またそれらを豊かに読み味わうようになった物語の時代でもあった。

当館の「平安文学における場面生成研究プロジェクト」では、このような平安時代の物語文学を主たる対象として、物語はどのように作られていくのかという生成の問題と、物語はどのように受け継がれていくのかという受容の問題を研究してきた。

本展示では、本研究プロジェクトの研究成果にのっとりた視点で、平安物語に関連する作品を体系的に展示することを試みた。

日 程：平成 21 年 11 月 9 日（月）～11 月 23 日（月）

場 所：当館展示室

鑑賞者：523 名

(5) 企画展示「能楽資料展」

概 要：当館が開催した連続講演「表氏八十以後能楽談儀—能楽研究百年史の争点を洗う—」に合わせて、当館所蔵・当館寄託・個人所蔵の能楽に関するさまざまな資料を展示した。

日 程：平成 21 年 12 月 7 日（月）～12 月 25 日（金）

場 所：当館展示室

鑑賞者：292 名

(6) 特別展示「江戸の歌仙絵—絵本にみる王朝美の変容と創意—」

概 要：百人一首、三十六歌仙の歌仙絵を基本に、歌人、狂歌師、俳諧師、遊女、武者、役

者、職人などの描画における、モチーフとしての歌仙絵の在り方を幅広く捉え、江戸の絵本を中心に、その画像の展開と変容を跡づける。また、歌仙絵と肖像画、歌仙絵の様式、歌仙絵の雅俗、その他の創造的な視点から問題を取り上げ、歌仙絵が絵画や文芸の上で果たした役割を多角的に追求する。プロジェクトのこれまでの絵本研究会及び国際絵本シンポジウムにおける成果を踏まえ、かつ当館展示にふさわしい、文学との関わりを意識した内容とした。

日 程：平成 22 年 1 月 8 日（金）～2 月 5 日（金）

場 所：当館展示室

鑑賞者：1,413 名

広報出版室

○概 要

【講演会】

(1) 連続講演

日本文芸の普及を図り、古典について広く深く理解してもらうため、第一線で活躍している研究者による連続講演を、平成 12 年度から年 1 回（全 5 回）開催している。平成 21 年度は、「表氏八十以後能楽談儀―能楽研究百年史の争点を洗う―」と題し、法政大学名誉教授表章氏による連続講演を行った。

なお、本連続講演と合わせ、展示室において企画展示「能楽資料展」を開催し、参加者の参考となるようにした。

また、この講演は、これまでの連続講演と同様に笠間書院から『古典ルネッサンス』シリーズとして刊行の予定である。

名 称：平 21 年度連続講演

テーマ：表氏八十以後能楽談儀―能楽研究百年史の争点を洗う―

講 師：表 章（法政大学名誉教授）

日 程：平成 21 年 10 月 26 日、11 月 9 日、11 月 30 日、12 月 7 日、12 月 21 日 14 時 30 分
～16 時 00 分

第 1 回 『花伝』成立論と世氏用字法探索と～世阿弥能楽論研究の進展と課題～

81 名

第 2 回 作者研究と作品研究の流れ～小段理論・古注の活用・作品史など～

75 名

第 3 回 観世信光と金春禅鳳～室町後期の新しい動き

75 名

第 4 回 徳川綱吉・家宣の功罪～大混乱の中の新傾向～

79 名

第 5 回 「座」「流」と「大夫」「家元」～能楽史研究の動向と展望

76 名

場 所：当館大会議室

参加者数：386 名（延べ）

(2) サテライト講座

当館が品川区から立川市へ移転したことを踏まえ、移転前から来館していた利用者など、都心の利用者に向けた講座を東京堂出版神保町第 1 ビルディングで開催した。

本年は「平安文学への招待」をテーマに今西祐一郎館長、中村康夫教授が講演を行い、各講演終了後に参加者から多数の質問が出るなど、好評であった。

名 称：平成 21 年度サテライト講座

テーマ：平安文学への招待

講 演：「歴史が書かれない時代」

中村 康夫（当館文学形成研究系教授）

「源氏物語はなぜ「不敬」が書けたのか」 今西祐一郎（当館館長）

日 程：平成 21 年 11 月 14 日（土）13：30～16：30

場 所：東京堂出版神保町第 1 ビルディング

参加者数：91 名

【アーカイブズ・カレッジ】

多様な史資料を取扱う専門の人材を養成するため、また大学院の教育に協力するため、長期コース・短期コースをそれぞれ年 1 回開催する。また、カリキュラム等の改善を図るため、講義を担当するアーカイブズ研究系教員を中心にカリキュラム研究会を実施する。

長期コースは、前期 7 月 21 日（火）から 4 週間、後期 8 月 31 日（月）から 4 週間の日程で国文学研究資料館において開催し、36 名が受講した。うち史料保存機関職員や大学教職員などの社会人は 18 名、大学院生は 18 名であった。このうち大学院の単位となったものは 7 名であった。なお今年度、長期コースの全 6 科目を修了した 14 名に修了証書を授与した。短期コースは、11 月 9 日（月）～14 日（土）に佐賀大学附属図書館（佐賀市）で開催され、33 名が受講した。うち史料保存機関職員や大学教職員などの社会人は 28 名、大学院生は 5 名であった。

(1) 長期コース

日 程：平成 21 年 7 月 21 日（火）～8 月 14 日（金）、8 月 31 日（月）～9 月 25 日（金）

場 所：当館オリエンテーション室ほか

受講者：36 名

(2) 短期コース

日 程：平成 21 年 11 月 9 日（月）～14 日（土）

場 所：佐賀大学附属図書館

受講者：33 名

【日本古典籍講習会】

日本古典籍講習会は、日本古典籍の整理・目録化を促進し、広く活用されるよう環境の整備を図るため、書誌学の専門知識や整理方法の技術修得を目的として、各所蔵機関の図書館員等を対象に、平成 15 年度から開始したもので、今年度で 7 回目である。第 1 回の平成 15 年度は、海外の図書館員等を対象として 5 日間開催、16 年度は国立国会図書館の協力を得て開催、17 年度からは、国立国会図書館との共催で開催している。第 2 回（16 年度）以降は、国内の図書館員等を対象に 3 日間開催している。今年度は、平成 22 年 1 月 20 日（水）から 22 日（金）、当館で開催され、大学図書館 26 名、公共図書館 6 名、計 32 名が受講した。

内容は、昨年と同様、日本古典籍の基礎知識、和古書目録の作成、データベース化の方法、近世の出版と流通、くずし字の読み方、蔵書印の見方・読み方などの講義、当館及び国立国会図書館の和古書目録規則の説明、古典籍資料の保存・管理法、貴重書紹介、書庫の見学などであった。

日 程：平成 22 年 1 月 20 日（水）～22 日（金）

場 所：当館オリエンテーション室

受講者：32 名

【子ども見学デー】

小学生を対象とした「子ども見学デー」を8月4日（火）に開催した。「子ども見学デー」は、法人化された平成16年度から開催しているもので、今回で6回目である。

今回は、今西館長の挨拶の後、当館がどのような研究をしているのかを見てもらうための館内見学、休憩を挟み、入口敦志助教の「百人一首の話」の後、カルタ取り大会を行った。館内見学では展示していた錦絵の複製を見学した。「百人一首の話」では、百人一首の成り立ちや、色々な種類のカルタの紹介があり、その後のカルタ取り大会では、当館外から3人の講師を招き、立烏帽子狩衣姿で宮中歌会始めと同じ読み方で百人一首の和歌を読んでもらい、子ども達は熱心に取り組んだ。

日 程：平成21年8月4日（火）14時00分～16時30分

場 所：当館大会議室

内 容：「百人一首の話」

入口敦志（当館文学資源研究系助教）

カルタ取り大会「歌会始めて百人一首」

青柳隆志（東京成徳大学人文学部教授）

兼築信行（早稲田大学文学学術院教授）

内池三郎（日本国語教育学会理事）

参加者：40名（内訳：子ども25名、保護者ほか15名）

【出版関係】

(1) 平成21年度国文学研究資料館紀要の発行

当館教員の研究成果を社会に還元する一環として、年度毎に研究紀要を発行している。

平成21年度は、文学研究篇第36号（ページ数：156ページ）、アーカイブズ研究篇第6号（ページ数：176ページ）を刊行した。

(2) 研究成果刊行促進制度

本制度は、当館の研究をより広く社会に還元するため、研究成果の出版を希望する当館の研究者に対して、内容等を審査の上で、出版に要する経費の一部を当館が負担し、出版物の刊行を促進することを目的として実施している。

平成21年度は、2件の申請があり、学術企画連携部広報出版室において、外部委員を含めた審査会を実施した結果、2件とも採択し、本制度を適用することとした。

○制度を適用した刊行物

① 人情本辞典—江戸文政期、娘たちの小説

発 行：平成22年1月15日

編 者：国文学研究資料館

発行所：有限会社 笠間書院

② アーカイブズ情報の共有化に向けて

発 行：平成22年2月28日

編 者：国文学研究資料館

発行所：有限会社 岩田書院

(3) 国文研ニュースの発行

当館の広報記事や研究内容を紹介する定期刊行物として年に4回発行する。

平成21年度は、15号～18号の4冊を発行し、関係機関に配布するとともに、催し物の際に来館者に配布した。